エフピコレポート2018

FP Corporation Report 2018

株式会社エフピコ

社訓

一、責任

二、自信

三、和

四、忍（がまん）

五、健康

創業者小松安弘が遺したエフピコの社訓

CONTENTS

■エフピコの約束

■企業プロフィール

■ TOP MESSAGE「エフピコの事業スタイル」

■調達

■製品開発

■製造

■物流

■販売

■リサイクル

■特集：関東エコペット工場
～持続可能な社会の実現に向けて～

■エフピコの ESG
ガバナンス
社会
環境

■第三者によるコメント

■エフピコのあゆみ

エフピコの約束

エフピコは食品容器の製造・販売を通じて

人と人、人と社会、人と環境を繋ぎます

エフピコが展開する食品容器の製造・販売事業には、消費者・流通業者・販売業者と協働で実践する地球環境保全のためのリサイクル活動や障がいのある人材を活かした事業などが組み込まれています。食品容器の活用により様々な食のシーンにおいて人と人を繋げるだけでなく、事業を通して人と社会、そして人と環境を繋げることにより豊かさの創造と共有に貢献していくことを目指し、それらを一つひとつ実践しています。

食品容器の製造・販売事業におけるエフピコの

顧客第一主義・現場主義

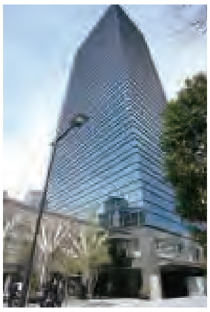
人々のニーズや社会の価値観などに沿った真に有用な製品を生み出し続けることを目指し、エフピコは「顧客第一主義」と「現場主義」を貫くことを掲げています。食品容器が使用される現場、販売される現場、そして製造・保管・輸送・納品される現場において重要なことは何か、求められることは何かを考え続けることにより、たゆまぬ進歩を続けています。結果としてそれが、「最も高品質な製品をどこよりも競争力のある価格で必要な時に確実にお届けする」という営業目標を達成することに直結しています。

企業プロフィール

会社概要

商　　号	株式会社エフピコ
設　　立	1962年（昭和37年）7月
代 表 者	代表取締役社長 佐藤 守正
資 本 金	131億5,000万円
社 員 数	813名（エフピコグループ：4,529名）
事業内容	ポリスチレンペーパーおよびその他の合成樹脂製簡易食品容器の製造・販売並びに関連包装資材等の販売
福山本社	〒721-8607 広島県福山市曙町一丁目13番15号 TEL 084-953-1145 FAX 084-953-4911
東京本社	〒163-6036 東京都新宿区西新宿六丁目8番1号 新宿オークタワー（総合受付36階） TEL 03-5320-0717 FAX 03-5325-7811

福山本社（広島県福山市）


東京本社（東京都新宿区）

ロゴに使用しているFPは創業当時の社名である「福山パール紙工」に由来しています。

エフピコグループ会社

製造

株式会社エフピコ北海道
株式会社エフピコ山形
株式会社エフピコ寒河江
株式会社エフピコ茨城
株式会社エフピコ下館
株式会社エフピコ筑西
株式会社エフピコ中部
株式会社エフピコ富山
株式会社エフピコ笠岡
株式会社エフピコ箕島
株式会社エフピコ福山
株式会社エフピコ神辺
株式会社エフピコ佐賀
株式会社エフピコ南郷
株式会社エフピコ鹿児島
エフピコダックス株式会社
エフピコ愛パック株式会社
エフピコグラビア株式会社
エフピコアルライト株式会社
西日本ペットボトルリサイクル株式会社

中部エコペット工場

福山リサイクル工場

物流

エフピコ物流株式会社
株式会社アイ・ロジック
エフピコイーストロジ株式会社
エフピコウエストロジ株式会社

八王子配送センター

販売・その他

エフピコ商事株式会社
エフピコチューパ株式会社
エフピコインターパック株式会社
エフピコダイヤフーズ株式会社
エフピコイシダ株式会社
エフピコみやこひも株式会社
エフピコ上田株式会社

主な製造・販売製品

発泡製品

ポリスチレンを材料とした製品類。精肉などは発泡トレーの上に載せ、ラップをして販売するスタイルが一般的です。寿司箱や弁当箱などの製品としてもお馴染みです。

精　肉

精肉用のトレーは最もスタンダードなエフピコ製品のひとつ。売り場のさまざまなニーズに合わせることのできる汎用性の高い製品です。

寿　司

一人前から数人前まで、寿司用の容器はエフピコの定番製品です。特別な日を演出する色鮮やかな容器も豊富です。

弁　当

さまざまな素材を使い、盛り付けし易いよう、また食べ易いように仕切りを入れた容器です。軽さと強度を兼ね備えているほか、見た目の楽しさも演出しています。

透明容器

食品容器の蓋などで数多く使用されています。透明で中身が見えるため、消費者の方々に安全・安心を提供できます。

鮮　魚

付加価値を付けた刺身などには蓋付きの透明容器も用いられています。陳列効率の向上や商品の劣化を防ぐ役目も果たしています。

青果物

主に野菜など採りたてのみずみずしさをそのままに販売するための容器です。お客様が新鮮さを確認できるよう、全体に透明素材を使用しています。

菓　子

団子、まんじゅう、ようかんなどの和菓子やドライフルーツなどのスナック用として使われています。商品の形に合わせた形状とすることで、型崩れを防いでいます。

高機能製品

耐熱、耐寒、耐油、耐酸、高い透明度、多機能利用など、高い機能性に特化した製品も製造しています。

電子レンジ対応

コンビニなどでも馴染みの深い、そのまま電子レンジで温めることができる容器も多種あります。レンジアップ後、持っても熱くない断熱性のある素材も使用しています。

中皿付き容器

中皿を仕切りとして蓋を付け、おかず（上）とご飯や麺（下）などとのセット販売に適した製品。丼ものや麺メニューなどに最適です。

スクリューキャップ容器

食品に限らず、さまざまな小物を入れるための多目的容器として活用されています。透明で密閉性が高いため、その用途は多岐にわたっています。

その他

たまごパックや袋形状のものなど、食品流通において必要とされる容器やパッケージの多くを製造・販売しています。

紙容器

紙を使用した蓋付きの弁当容器やテイクアウトフード用の容器です。和の雰囲気を演出する時など、食シーンに応じてお使いいただけます。

鶏　卵

透明たまごパックの生産も行っています。再生PET原料を利用したリサイクル製品です。

フィルム製品

野菜、くだもの、生花などの包装用フィルムです。商品の鮮度を確認でき、商品の形状にかかわらず包装できる利便性が重宝されています。

TOP MESSAGE

価値創造と持続可能な発展を包括的に実践する

エフピコの事業スタイル

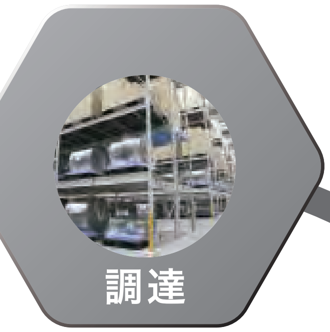
代表取締役社長
佐藤 守正

事業を循環させながら
繋ぐことで価値を
創造していくのが
エフピコのスタイル。

エフピコの
ューチェーン

現在の日本の食生活において食品容器は必要不可欠なものとなっています。私たちエフピコが製造する食品トレーや容器は、食品製造の現場からスーパーマーケットなどの小売店を経て消費者の皆様の毎日の食卓に新鮮で美味しい食品を届けています。食品容器が担う役割は「食品を包んで運ぶ」というとてもシンプルなものですが、そこには数えきれないほどの機能と利便性が詰まっているのです。衛生面への配慮、耐熱性・耐寒性、耐油性・耐酸性、電子レンジへの対応、商品陳列の利便性を考慮した積み重ね易さなど、消費者の方々が普段あまり気にすることなく「当たり前」と感じていることにもたくさんの創意工夫が詰まっています。さらには食品容器を使い捨てとすることなく、リサイクルして何度も繰り返し使用するための環境に配慮した容器もエフピコ製品の特徴です。

調達の重要性を認識して低炭素社会実現のための配慮をおこなっているだけでなく、資源生産者として地上資源からリサイクル素材を生産しています。



スーパーマーケットなどの食品販売業者や消費者などのユーザーにとって高付加価値のある製品の開発をおこなっています。

必要な時に必要とされる量の製品を提供するため、ハードとソフトの両面における生産体制を整えています。

製造した製品をタイムリーに小さい環境負荷でお客様へと届けるだけでなく、配送の帰り便を活用して製品のリサイクルにも寄与しています。

国連広報センターより引用

エフピコのバリューチェーンは、国連が提唱するSDGsに沿った社会的価値を創造しています。詳細はP.35-36をご覧ください。

このように社会全体にとって価値ある製品を生み出し続けることがエフピコの事業の根幹にあるわけですが、そのバリューチェーンを循環・発展させながら動かしていくなかで私たちは事業に係るステークホルダーの方々と様々な形で繋がっています。製品の利便性という価値を創り出すためには主にスーパーマーケット・コンビニエンスストアの方々と綿密なコミュニケーションを取って知恵を出し合い、使用済み容器のリサイクルにおいては包材問屋・販売店・消費者や自治体の方々と大きな協力の輪を形成して容器の回収をおこなっています。消費者の皆様にはエフピコの顔は見えなくても、使用済み容器をスーパーの回収ボックスに入れた時、私たちと繋がることになるのです。事業展開のなかでステークホルダーの方々を繋ぎ、大きな協働の輪を生み出すことで価値を創造する。これがエフピコのユニークな事業スタイルとなっています。

調達

PROCUREMENT

エフピコの循環型価値創造

調達は循環型価値創造のスタート地点であり、
環境負荷という面ではCO_2排出の約５割を占める
最も重要なフェーズです。

CO_2の排出という観点から見ると、食品容器を製造するための原料調達が及ぼす環境負荷は製品ライフサイクルの約半分を占めます。その意味でも最も環境負荷の小さい原料を選ぶことが、その後のバリューチェーンにおける価値創造の意義を高めます。エフピコはバリューチェーンの最後のフェーズであるリサイクルで、使用済み容器を原料へと再生しており、自らが調達者として原料製造メーカーの役目も果たしています。現在はリサイクルによる原料調達の割合は徐々に増えてきています。バリューチェーンの最終フェーズが起点の調達へと繋がることでエフピコの循環型価値創造が完成されるのです。

使用済み PETボトルをリサイクルして
製造した PET素材を貴重な
地上資源として活用しています

“この地球のために、わたしたちができること。製造業としてのエフピコができることと、すべきことの重要性と責任を常に感じています。”

事業で使用する原材料や製・商品等は、資源の採掘から加工・製造・販売という長いサプライチェーンを経て調達しています。その過程で環境汚染や人権問題などに配慮された製品・サービスを調達することは事業者としての責務です。エフピコグループではエフピコグループ行動憲章に則って「CSR調達方針」を制定し、調達における環境・社会配慮を推進しています。

執行役員　資材部ジェネラルマネージャー
藤植　修

エフピコCSR調達方針

1. 品質本位
お客様にとって価値ある安心・安全で高品質な製品・サービスをご提供するにあたり、調達活動は当グループの「品質方針」に沿って品質と安全を最優先し、さらにコストについても重視いたします。

2. 公正な取引
経済合理性、適正な品質、納期の厳守、社会規範の遵守、社会的課題への配慮、環境配慮などを総合的に勘案し、公正、透明な方法でサプライヤーを選定します。正当な理由なく、特定の取引先に利益を供与したり、不当な不利益を課すようなことはしません。

3. 法令等遵守
調達活動においては、法律及び社会規範を尊重し、いかなる場合もこれらに違反しません。反社会的勢力とは一切の関係を持たず、不当な要求は拒絶します。

4. 社会的課題への配慮
基本的人権を尊重し、労働安全衛生に配慮し、不当な差別や強制労働や児童労働などの人権侵害を行わないサプライヤーとの取引、製品・サービスの調達に努めます。

5. 環境への配慮
当グループの「環境方針」に則り、環境負荷低減の取り組みを推進し、気候変動、生物多様性などの環境問題の抑制や緩和に資するサプライヤーとの取引、製品・サービスの調達に努めます。

6. サプライヤーとの協働
調達にあたって社会的課題や環境への配慮をサプライチェーンにわたって実践するため、サプライヤーと長期的な信頼関係を築き、共存共栄を図ります。サプライヤーと協働しリスクの適切な管理と未然防止を徹底し、社会と経営への影響を回避する取り組みに努めます。

原材料の安全性の確保

プラスチック製の食品容器は、食品に直接触れる用途であることから食品衛生法、食品安全基本法や業界での自主基準など安全に関する様々な基準が設けられています。エフピコでは国による法令・公的基準、より厳しい業界の自主基準、さらに自社基準の遵守によって食品容器の安全・衛生性を担保しています。「エコAPET」の再生原料プラントでは世界的安全基準であるFDA（米国食品医薬品局）のオピニオンレター（NO OBJECTION LETTER: NOL）を取得しています。

●エコトレー・エコAPETガイドライン

厚生労働省が定める「食品用器具及び容器包装の製造等における安全性確保に関する指針」に沿い、2003年より下記４項目の基本原則に基づいた社内ガイドラインを作成して運用しています。

1．ソースコントロール…原則として再資源化を目的として分別収集された食品用途の合成樹脂に限定
2．非意図的な汚染物の食品への混入防止…回収品の限定、選別、洗浄などの再生工程、バージンフィルムラミネート、使用条件の制限
3．再生工程及び成形工程の適切な管理
4．食品衛生法の規格基準に合致すること…1992年3月のエコトレー上市当初から、各リサイクル工場毎に厚生労働省告示370号の規格基準試験を公的機関で実施

製品開発
PRODUCT DEVELOPMENT

エフピコの循環型価値創造

お客様であるスーパーマーケットなどの食品販売業者や消費者の方々が必要とする容器を開発するだけでなく、地球や地域社会が求める製品も創っています。

食品容器メーカーとしてのエフピコが社会に提供する価値は容器がもたらす様々なメリットです。食品を製造する製造業者、食品を運ぶ輸送業者、食品を販売する流通業者、そして食品を消費する消費者のそれぞれにメリットを提供する容器をエフピコは開発しています。容器を使用する全てのステークホルダーに利便性を提供し、さらには環境負荷低減という形で社会全体に有用性を提供する。製品開発はエフピコ成長の原動力であり、バリューチェーンを力強く回す推進力でもあります。

アイディアを出し合い検証する地道な作業が毎日続いています

エフピコ製品が提供する様々な利便性

- 漏れにくい・ズレにくい：　食品を安定した状態で運搬できる
- 耐熱・耐寒・断熱：　高温や低温環境でも変形しないほか、食品の温度をキープ
- オペレーションコストの低減：　短時間で売り場に陳列が可能。バックヤードでも保管が便利
- 電子レンジ対応：　容器に入ったまま食品を電子レンジで加熱
- 食品の演出：　美味しさ、鮮度、彩り・味わい等の表現に役立つ
- 環境にやさしい：　使用後は回収してリサイクルできる

“製品を開発するということは利便性や有用性を形にするということです。この難しい仕事を実現することで製品の価値が生まれます。”

執行役員
生産本部副本部長 西地区担当（兼）
製品開発部ジェネラルマネージャー
村岡 広行

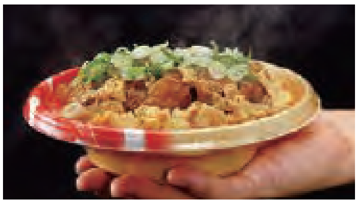
製品の開発はお客様の要望を汲み取る容器開発部と汲み取った思いを形にする製品開発部の協同作業でおこなっています。容器開発部はお客様とダイレクトに接している営業スタッフから「こんな容器が求められている」という要望を受け取り、そのマーケティング上の要望を満たす機能を持つ容器像を模索するいわばソフト面での開発を担当。次に製品開発部は求められている容器像を実際の形にするための設計という技術面での役割を果たしています。要望というお客様の思いを形にすることは決して簡単ではありません。マイナーチェンジで済む場合もありますが、時には素材からの見直しであったり、180度視点を変える発想の転換が必要であることも。ひとつの製品開発に2カ月から半年以上の時間が必要ですが、エフピコでは毎年数百点のモデルチェンジ（新規金型）をおこなっており、同金型別デザインも含めると数千もの新製品を出しています。

オリジナル素材の製品が生み出す高付加価値

食やライフスタイルの多様化に伴い食品容器にも様々な機能が求められています。エフピコはこうしたお客様のニーズをいち早くキャッチし、常に一歩先を行く機能性を持つオリジナル素材製品を開発しています。

マルチFP（エフピコオリジナルシート製品）

軽量の発泡素材でありながら電子レンジの加熱に適した耐熱性（110℃）と、耐寒性を併せ持ちます。断熱性、保温性にも優れ、電子レンジで加熱しても食品容器の外側は70℃以下。中身の食材が高温でも安心して手で持つことができます。



マルチSD（ソリッド素材製品）

電子レンジの加熱に適した耐熱性（110℃）に優れている製品です。成形性に優れた非発泡素材のため、複雑でシャープな形状のデザインを施すことができます。また積み重ねても場所を取らないという利点もあります。

透明PP

耐熱性・耐油性に優れた透明容器です。電子レンジで加熱しても変形などに強い容器です。温惣菜をお皿に盛り替える事なく、そのまま電子レンジ加熱できます。

OPET（2軸延伸PET）

PETを縦・横に延伸して（2軸延伸）分子を配向させることで、強度と耐熱性をアップしています。耐油性に加え透明性を維持したままで従来のAPET素材の温度60℃耐熱を80℃まで向上させました。エフピコが世界に先駆けて開発した食品容器の材料シートです。

使いやすさを追求した設計とデザイン

全ての製品についてユーザーの使用目的や使い勝手を考慮した容器の設計とデザインを随所に施し、製品の価値を最大限に高めています。

広い天面と高い透明性

蓋の天面を広くするとともに透明性の高い素材とすることで、中身をはっきりと見せます。

蓋を開けやすい工夫

蓋を開ける場所が分かりやすいデザインとし、簡単に開けられる形状にしています。

中身のズレ防止

容器の底の部分に凸凹を施し、配置した食品が運搬時にズレないようにしています。

液モレ防止

中身に液体が含まれる商品の場合、蓋にリブを付けることで容器からの液モレを防ぎます。

環境対応製品によるCO_2削減効果

エコトレーとエコAPET（透明容器）はエフピコが開発した環境対応製品です。エコトレーは1992年、エコAPETは2012年に販売を開始しました。回収した使用済み容器・PETボトルからペレットとフレークをそれぞれ製造し、それらを原料として新しい製品を製造します。エコトレーとエコAPETの2つの環境対応製品はCO_2の削減に大きく貢献しており、エコトレーおよびエコAPETではバージン原料を使うよりもCO_2を30%低減することができます。

エコトレー

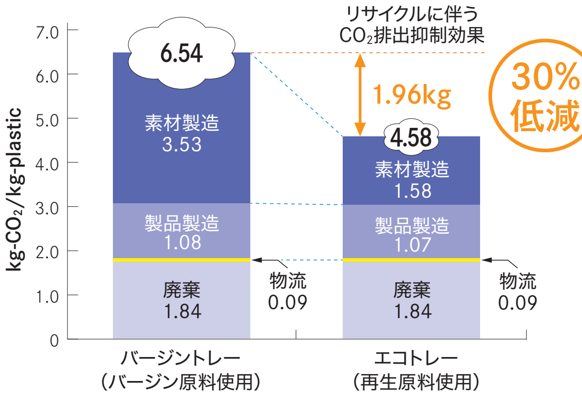
スーパーマーケットなどで回収されたPSP（発泡ポリスチレン）容器の再生品。肉、魚、野菜など素材の販売で多用されています。何度も繰り返し再生できる循環型リサイクルトレーです。

エコAPET・エコOPET

スーパーマーケットなどで回収された透明容器やPETボトルをリサイクルし、再び透明容器に甦らせました。蓋と一体型の容器や蓋のみとしても活用されています。

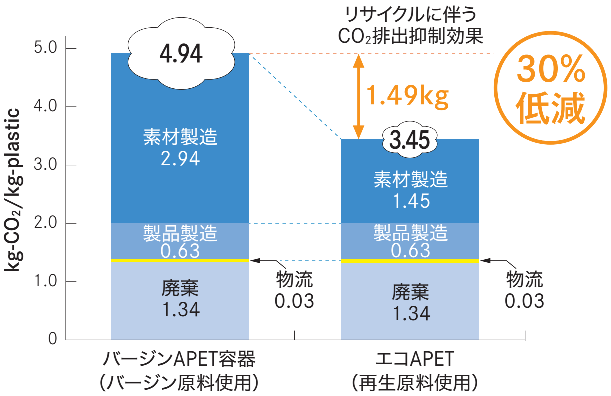
エコリーフ基準をベースにしたバージン製品とリサイクル製品のCO_2排出比較

エコトレー　エフピコ製品比較



エコトレーを1kg使うと
約1.96kgのCO_2排出抑制効果が得られます。

エコAPET　エフピコ製品比較



エコAPETを1kg使うと
約1.49kgのCO_2排出抑制効果が得られます。

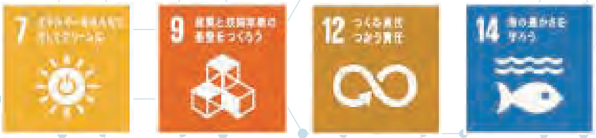
※環境ラベルタイプⅢ（エコリーフ）製品分類基準に基づき算出

2017年度に削減したCO_2の量

約11.3万トン

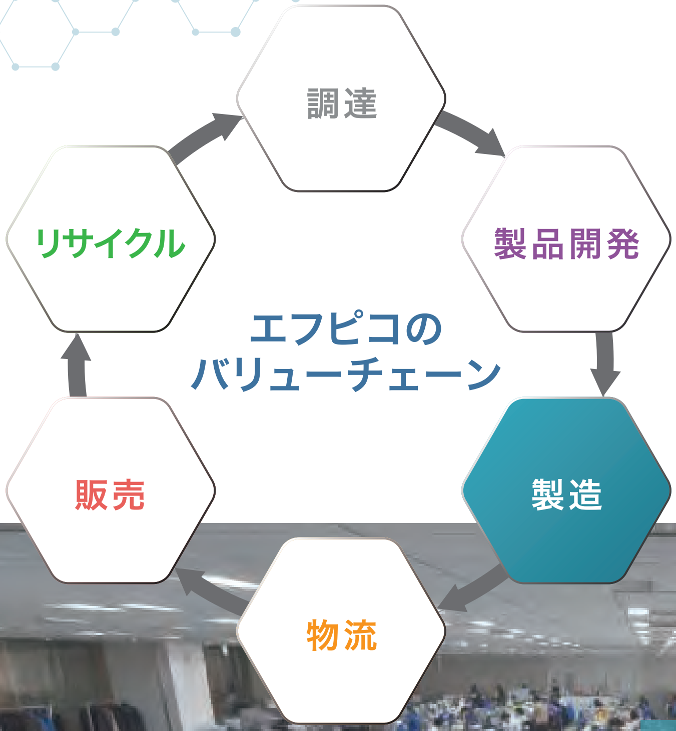
お客様であるスーパーマーケットなどの方々にCO_2負荷の低いエコ製品を選んでいただくことにより、社会全体が排出するCO_2が大幅に削減します。

製造
MANUFACTURING

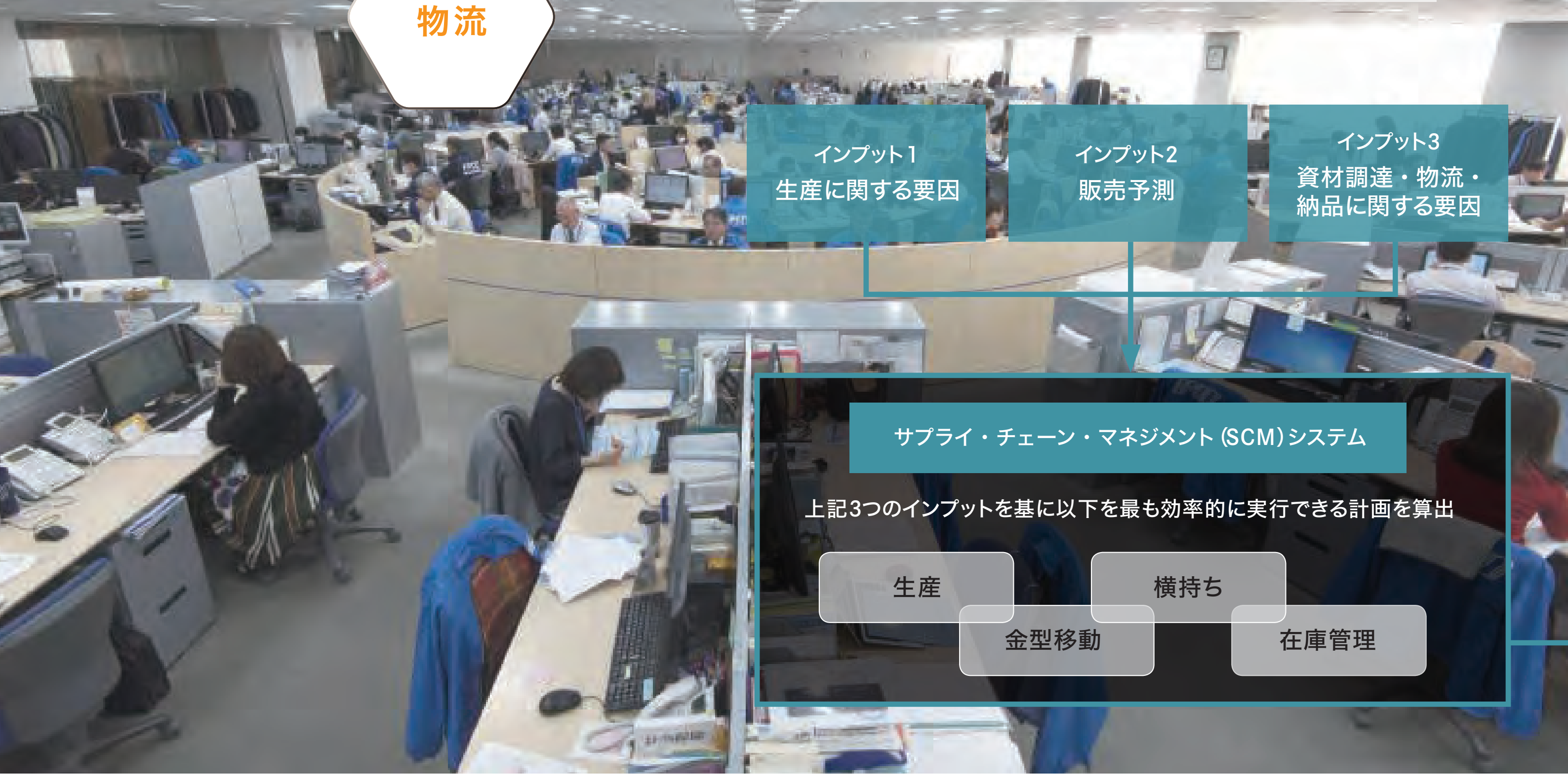


エフピコの 循環型価値創造

全工程にわたる作業の効率化をおこない、
環境にも配慮しながら、必要な時に必要とされる量を
提供する生産体制を整えています。



製品開発部が作成した設計図を基に製品の製造をおこなう工程では、多岐にわたる側面に配慮がされています。そのひとつは、次の工程である物流への配慮。製品製造のための金型移動や製造した製品の配送など、製造に関わる物流活動を効率的におこなうことを考えた生産計画を立てています。また製造においては環境に対する配慮も重要です。効率性を追求して無駄を徹底して排除することにより、CO_2の排出を最小限に留める努力をしています。こうした条件を全て満たす生産計画を策定するためにエフピコが採用しているのがサプライ・チェーン・マネジメント（SCM）システムです。SCMはエフピコのバリューチェーンの司令塔として全てのフェーズに関わる要因を汲み取り、生産の効率性を実現しています。



専務取締役 生産本部本部長
永井 信幸

“生産計画と工場の現場の間に生じる僅かなズレを修復しながら計画通りに製造するのがエフピコのものづくりです。”

エフピコの生産計画はサプライ・チェーン・マネジメント（SCM）システムによって策定されています。生産に伴う物流とその後の配送も含めた計画をつくるＳＣＭは、エフピコの頭脳とも言えます。今どこに何がどれだけあって納品のためにどこで何をどれだけ生産すれば良いか、この複雑な計算をやってのけるのがＳＣＭです。さらに生産に無駄の出ないよう営業スタッフによる販売予測や過去の販売実績も加味した計画を立てています。そしてＳＣＭの立てた計画とそれを実行した後の差異を人の目で検証し、どんどんとブラッシュアップしていくのです。エフピコのバリューチェーンの核となる頭脳はコンピュータと人のハイブリッドにより日々進化しています。

ＳＣＭにより策定された
最も効率的で無駄のない生産・供給計画に基づき
全国19カ所の拠点で製品の生産をおこなっています

3カ所の大規模生産拠点を含む19の工場

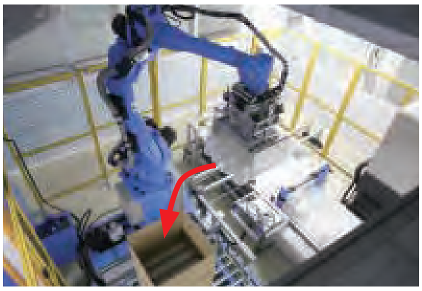
エフピコは約1万種類もの製品を製造しており、全国のスーパーマーケットやコンビニエンスストア、包材問屋などに納品しています。タイムリーな納品を考えると生産工場を消費地の近くに置くことは必然となります。生産工場は全部で19カ所。そのうち関東、中部、福山の3カ所はリサイクルと物流関係の施設も含む大規模生産拠点となっています。これらの生産拠点ではリサイクル工場を擁しており、使用済み容器をフレークやペレットとして再原料化し、すぐに新しい製品を製造するという究極の効率化を実現しています。

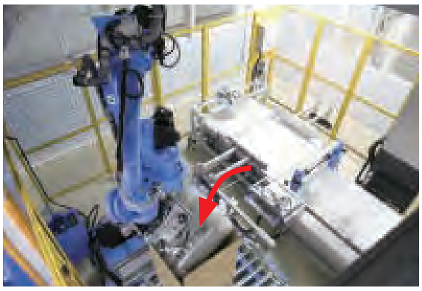
1 関東八千代工場を中心とした拠点
関東八千代工場（生産）、関東ハブセンター（物流）、関東リサイクルセンター（リサイクル）、関東エコペット工場（リサイクルから生産まで）が同敷地内に集積。

2 中部工場を中心とした拠点
中部工場（生産）、中部ピッキングセンター・中部配送センター（物流）、中部リサイクルセンター（リサイクル）、中部エコペット工場（生産）が隣接。

3 福山工場を中心とした拠点
福山工場（生産）、福山ピッキングセンター・配送センター・福山クロスドックセンター（物流）、福山リサイクルセンター（リサイクル）が同敷地内に一体化。

人材不足に対応し安定生産を目的としたロボット化





現在の日本における人手不足は将来に向けて大きな問題になりかねませんが、エフピコは可能な限り作業のロボット化を進めています。以前は人手に頼っていた箱詰め作業も今はロボットが24時間対応しています。

障がいのある従業員の能力を活かした生産計画

エフピコダックス株式会社とエフピコ愛パック株式会社という2つの子会社において障がいのある従業員が数多く働いています。障がいのある従業員の業務は使用済み容器の選別と食品容器の製造という2種類に分かれますが、製造業務に就いている従業員は小ロット生産の製品を担当しています。大規模な工場での生産には向かない小ロット製品、デパートの地下食品売り場で販売されているような高級弁当の容器、製造に手間のかかる製品など、高い集中力と根気が必要とされる製造業務に障がいのある従業員が活躍しています。

障がいのある従業員が働く工場の多くは大量生産をおこなう工場がある拠点の近くに位置しています。大規模な生産体制をもつ工場と小ロット対応の小規模工場の組み合わせにより、お客様のニーズに合わせた生産にフレキシブルに対応することができるのです。

〔障がいのある従業員が働く生産工場〕

エフピコダックス（株）

容器成形　回収容器選別

株式会社エフピコの特例子会社として厚生労働大臣から認定を受け、全国規模で事業を展開しています。

北海道工場　千葉工場
高知工場　佐賀工場

エフピコ愛パック（株）

容器組立　回収容器選別
ウレタンマット・シール貼り

営利法人としては日本初となる障害者自立支援法（現障害者総合支援法）による就労継続支援A型の事業所認定を受けています。

山形工場　茨城工場
岐阜工場　西宮工場
福山工場　広島工場
佐賀工場

提携先法人

容器組立

地域の社会福祉法人に業務委託をしています。

八王子PW工場

1 **エフピコダックス（株）千葉工場**
機械で成形された発泡トレーを裁断する作業をしています。
この作業に携わるのは熟練の作業員だけです。

2 **エフピコダックス（株）高知工場**
機械で裁断した透明容器の検品と箱詰めをしています。
スピードと正確さが要求されます。

3 **エフピコ愛パック（株）福山工場**
高級弁当の折箱タイプ食品容器の検品作業をしています。
組み立ては手作業のため、集中力と技術が必要です。

物流
LOGISTICS

エフピコの循環型価値創造

製造した製品をタイムリーに小さい環境負荷でお客様へと届けるのは当たり前のこと、空になったトラックの帰り便を活用して製品の循環（リサイクル）にも寄与しています。

物流はエフピコのバリューチェーンのキープレーヤーとなっています。それはエフピコが自社物流で製品・商品の配送をおこなっているからです。自社で倉庫業と運送業を展開しているため事業内容の自由度が高く、目的に応じて計画や作業内容をカスタマイズできます。製造工場の隣に物流拠点を配置するなどして製造業と販売業をシームレスに繋ぐ役割を果たしながら、自社便だからこそできる使用済み容器の回収など、リサイクル事業の輪を完成させているのも物流です。事業と事業を繋ぐ物流活動がバリューチェーンを回しています。

倉庫業（ピッキングセンター）と配送業（物流センター）のペアが
エフピコにおける物流のスタンダード

●ピッキングセンター(倉庫業)

北海道ピッキングセンター(北海道石狩市)
東北ピッキングセンター(宮城県大衡村)
関東ピッキングセンター(茨城県八千代町)
茨城ピッキングセンター(茨城県八千代町)
八王子ピッキングセンター(東京都八王子市)
新潟ピッキングセンター(新潟県長岡市)
中部ピッキングセンター(岐阜県輪之内町)
関西ピッキングセンター(兵庫県神戸市)
福山ピッキングセンター(広島県福山市)
広島ピッキングセンター(広島県廿日市市)
九州ピッキングセンター(佐賀県吉野ヶ里町)

●配送センター(運送業)

北海道配送センター(北海道石狩市)
東北配送センター(山形県寒河江市)
関東配送センター(茨城県八千代町)
東京配送センター(千葉県船橋市)
八王子配送センター(東京都八王子市)
東海配送センター(静岡県長泉町)
中部配送センター(岐阜県輪之内町)
関西配送センター(兵庫県神戸市)
福山配送センター(広島県福山市)
九州配送センター(佐賀県吉野ヶ里町)

倉庫業と運送業を自社で展開していることが、エフピコの物流事業の最大の特徴でありグループ全体に大きなメリットをもたらしています。

エフピコ物流株式会社
代表取締役社長　兼
株式会社アイ・ロジック
代表取締役社長
小泉 哲

一般的な製造企業では物流を専門業者に任せているのが普通かもしれませんが、エフピコでは物流事業を自社で抱えているだけでなく、製造した製品を蓄えて配送に備える倉庫業とそれらを配送する運送業の両方を展開しています。このことにより生まれる最大のメリットは、お客様に提供するサービスの向上であり高い顧客満足度です。物流事業はサービス業です。お客様が必要とするものを必要とする時間までに確実に届けることが最も重要です。サービスの質を確実なものとするためには、自社でその工程の全てを管理する必要があるわけです。自社で物流計画を立て、自社で製品を運び、自らの目でその業務内容を確認する。そして改善のためのモニタリングもおこない、確実にフィードバックを反映します。このエフピコのユニークな物流事業は、エフピコグループ全体の価値創造の重要なプレーヤーとなっています。

自社物流システムにより高度な効率化を実現

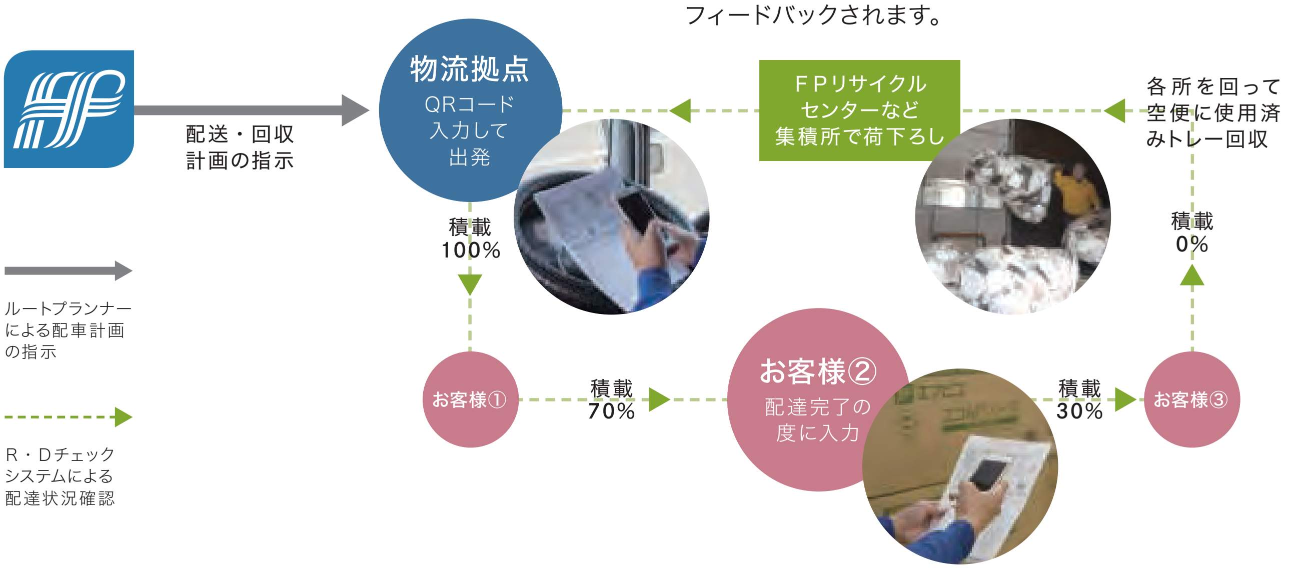
自社が取り扱う製品・商品のみを配送する自社物流であるため、高い自由度での物流計画の立案が可能となります。独自のシステムを駆使し、85%の納品は予定時刻のプラスマイナス15分での到着という精度を実現しています。

ルートプランナー

直近6カ月の配送データをベースデータにして最も効率的な配送ルートを作成し、正確で確実な配送と効率的な配車計画を立案します。

R・Dチェックシステム

配送のスタートから納品までの状況をドライバーがQRコードをスキャニングし、リアルタイムで見える化するシステム。このシステムで日々集積される配送実績データは、ルートプランナーの正確性アップの基礎データとしてフィードバックされます。



物流改善発表会

エフピコ物流グループ各社の全国の拠点から代表者が集まり、毎日の業務のなかで実践している各種改善施策の発表会を毎年開催しています。2017年の開催で7回目となりましたが、改善施策やアイディアの共有という横の繋がりが効率化、安全性、サービスなどの業務内容の品質アップに推進力を与えています。

非常用発電設備

お客様が必要なものを必要な数量で必要とされる時間までにお届けするためには自然災害などの非常事態に対応したインフラの整備も重要です。エフピコでは全国の自社在庫拠点の97%で非常用発電設備を設置しています。これにより72時間の電力供給が可能となっています。

技術の粋を集めたシステムで倉庫業を展開

クロスドックセンター

同じ敷地内に複数の倉庫を擁する大規模な物流拠点では倉庫同士をソーターで連結し、クロスドック1カ所で積み込みをおこなっています。トラックが倉庫を回って何度も積み込みをする手間が省け、出荷に掛かる時間やコストを大幅に削減することができます。

音声ピッキング

エフピコが採用する音声ピッキングシステムでは、スタッフは集めるべきアイテムの指示を機械からヘッドフォンで受けます。目を閉じている瞬間でも耳から情報が入るアイズフリーの状態であり、その情報の確認もマイクを通して瞬時におこなえます。リスト表などの紙を使用しないハンズフリーの情報のやり取りであるため、スタッフの集中力を非常に高く保つことができます。その成果は100万分の0.5件のミス発生率という驚異的な数字が示しています。

何を集めるかの指示はヘッドフォンから耳へと直接伝わります。

指示確認の応答はマイクを通しておこないます。リストにチェックマークを入れる煩雑さはありません。

両手を使ってピッキング作業をおこないます。常に両手が空いているハンズフリーの状態であるため、作業効率は大幅にアップします。

ロケーションマネジメントシステム

空いている棚へとケースを入れてスペースを埋めていき、後に出荷頻度に合わせて出し易い場所へと随時変更していくシステムを採用しています。ケースの設置場所を固定しない自由度の高い方式により、出荷時の時間と労力を効率化しています。グループ全体で300万ものケースを保管しているエフピコでは必要不可欠なシステムです。

ソーターシステム

荷物を積むトラックバースへとケースを移動する際、必要なものを必要な数仕分けするのがこのソーターシステムです。1時間に6千ケースの仕分けが可能であり、短時間で何十台ものトラックへとケースを運んでいきます。また人の手を介さずにケースを移動することは、製品のダメージ軽減にも繋がります。

販売
SALES

エフピコの循環型価値創造

常に消費者目線、お客様目線を持ち、食品製造会社やスーパーマーケットなどのお客様との協働による提案型販売をおこなっています。

循環型価値創造に欠かせないのは、事業に関わる全ての部署が同じ意識を持つという”連続性”です。製品開発部が製品の設計に込めた意図はそのような製品が欲しいと思う販売スタッフの要望が発端になっていますし、それを製造する者も運ぶ者もその意図を理解しています。そして最も大切なのは、販売スタッフがお客様や消費者の方々の要望をくみ取ることです。創業者の小松安弘は”現場主義”という考え方のもと、月百回のお客様訪問を販売スタッフに課しました。私たちが作った製品が使われる現場に行き、それがどのように受け止められているか、お客様からどのような要望があるか、また食品販売の現場のトレンドはなにかを知ることが最も大切だと信じていたからです。エフピコにおける販売は売るだけではなく、価値を生み出す情報を集める役目も果たしています。

売り場訪問はエフピコ営業スタッフの日課になっています

「現場百遍」がセールスチームの合言葉。ヒントや答えは現場にあるということであり、お客様とのコミュニケーションを深めるのも現場です。それがエフピコスタイル。

約1万種類もの製品を扱うエフピコ。惣菜用の容器だけでも千種類を超え、鮮魚、精肉、米飯、麺類、寿司、野菜・果物、弁当などの各カテゴリーでも用途に応じて多数の種類の製品をお客様にお届けしています。その全てに目を光らせ、食品販売の現場で常にアイディアを探しているのが営業スタッフです。その彼らが生み出すアイディアの源泉はお客様や食品製造業者の方々とのコミュニケーションにあります。改善や新製品のアイディアは突如として浮かんでくるものではなく、食品販売に関わる人々との日々の会話やふと聞こえてくる現場の声がヒントになっています。売れるものとは価値のあるものであり、価値ある製品を生み出すためには、何が価値となるのかを知ることから始まります。価値を知り、創り、売るというのがエフピコの考え方なのです。

専務取締役
第二営業本部本部長
兼 第一営業本部管掌
髙西 智樹

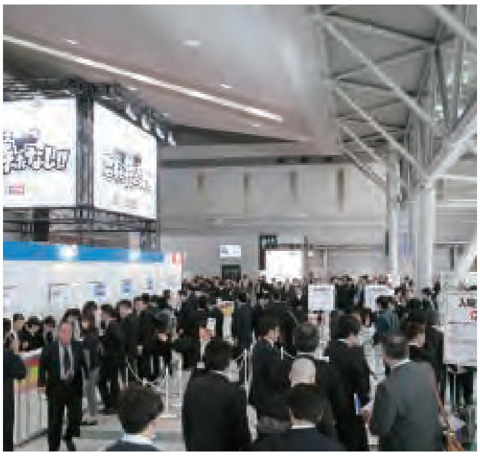
異なる種類の食品を容れる容器のそれぞれに、その食品に適した素材、形、色、デザインがあります。さらに運搬、保管、陳列、冷凍、レンジアップなどの用途によっても容器の仕様は変わります。食品販売の現場を知り尽くさなければ容器の提案はできません。

提案型セールスの集大成「エフピコフェア」

「現場百遍」を実践し、お客様との密なコミュニケーションにより得たアイディアを具現化するのがエフピコのものづくりですが、製品を販売する際にもお客様の意見や要望を吸い上げて様々なアイディアを提案する手法をとっています。これを一言で表現すれば「提案型セールス」です。「こういう風に容器を使えば利便性がより発揮できます」、「このような食材をこの容器に容れればたくさん陳列できます」、「この容器を使ってこんな売り場をつくれば買い物客に興味を持っていただけます」など、エフピコが提案できることは際限なくあるのです。

通常のセールス訪問では提案するアイディアを具体的な形でお見せすることが難しいことから、広い展示会会場を使ってスーパーマーケットなどの売り場を再現することにより、私たちからの提案を体感していただくため年に一度東京ビッグサイトにおいてエフピコの総合展示会「エフピコフェア」を開催しています。

３日間開催のこのフェアには毎年約１万５千人の来場者にお越しいただいています。そのほとんどはスーパーマーケットなど小売業者の方々。食材毎のエフピコ製品の選び方、食品の容れ方と見せ方、陳列方法、売れ筋のトレンド情報、売り場のつくり方など多岐にわたるアイディアを一堂に集めた、毎年の来場に値する展示会であると自負しています。実際のところ来場する日本全国の食品小売り業関係者の数は年々増えており、ご好評をいただいております。



1 会場内の数カ所でプレゼンテーションをおこない、今年の新製品などをアピール。
2 フェア最大の特徴であるスーパーの売り場を再現した展示で来場者にエフピコ製品の使い方を体感していただきます。
3 来場者は自由に写真を撮ることができ、今後の参考として役立てていただいています。
4 試食も体感の大切な要素となっています。
5 フェアはたくさんのお客様とコミュニケーションを取ることができる貴重な機会。
6 お帰りの際は製品サンプルをご提供。

コ・クリエーション型営業の推進

提案型セールスの一貫としてエフピコは食品メーカー（カット野菜、米飯類、加工肉など）やベンダー（惣菜、弁当製造業者など）の方々との協働で食品売り場づくりや市場の創造をおこなう「コ・クリエーション型営業」を推進しています。コ・クリエーションが意味する「共に創造する」という言葉の通り、中に容れる食品（食材）とそのための容器のベストマッチを一緒になってスーパーマーケットなどの方々に提案営業することです。例えば、スーパーマーケットで販売されている新鮮な魚と野菜に加え、出汁も入れた鍋セットをそのままレンジで加熱できるエフピコの容器に容れて販売することを提案します。このケースでのパートナーは、出汁を提供する調味料メーカー様ということになります。この提案によりスーパーマーケットでは食材の選択、容器の選択、売り方の考案などにおける大きなヒントを得ることができますし、もし提案の内容そのものが気に入れば、提案の通りすぐに実践することもできます。このコ・クリエーション型営業はお客様の売上やオペレーションの面で大きなメリットを提供しています。

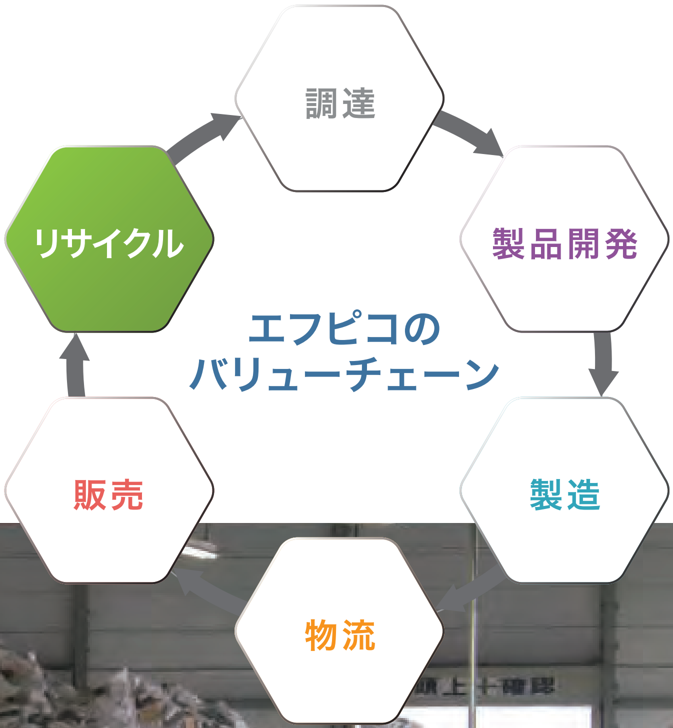
リサイクル

RECYCLE

エフピコの循環型価値創造

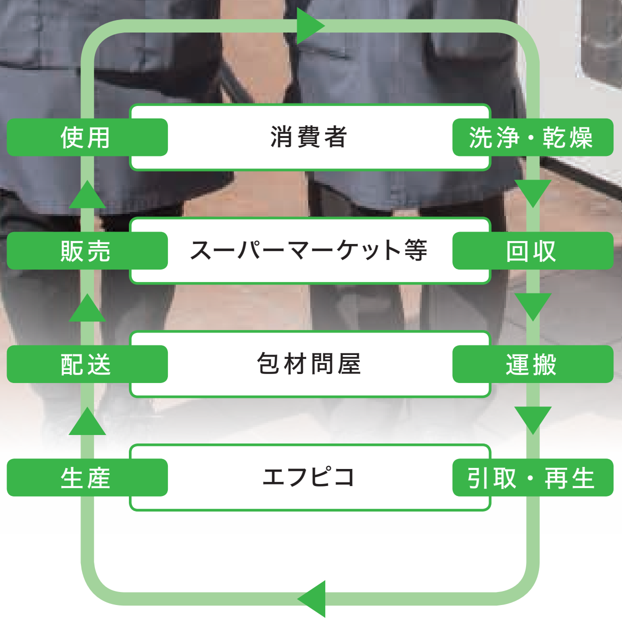
「食品容器を使い捨ててゴミを増やしたくない」。
誰もが持つ日本人の“もったいない”精神を
エフピコは利益を生む事業として形にしています。

使用済み容器のリサイクル事業はエフピコのバリューチェーンを力強く循環させています。販売して終わりではなく、使用済み容器を回収することでその後もたくさんのステークホルダーと関わり続けます。多くの方々からの協力を得てリサイクルの輪を回し、廃棄せずに再び資源化する。その資源を再利用して新しい容器をつくる。リサイクルをバリューチェーンの最初の調達と繋げることにより、新たなダイナミズムを生み出します。決して途切れることのないエフピコのバリューチェーンはリサイクル事業が生み出す人々との絆が支えています。



大量の使用済みトレーが毎日全国にあるエフピコの選別センターへと運ばれています

4者一体のエフピコ方式リサイクル



スーパーマーケットの回収ボックスを軸としたエフピコ方式のリサイクルは1990年にスタートしました。消費者、スーパーマーケットなどの販売者、包材問屋などの流通業者の3者をエフピコが繋ぎ4者一体となってリサイクルの輪を回しています。

約30年前にスタートしたエフピコ方式のリサイクル。今では企業主導による全国規模のリサイクルシステムとして確立しています。

1980年代、全国の市町村でゴミ処理の問題が大きな社会的課題となりました。エフピコは企業としていち早くこの問題に取り掛かり、1990年にエフピコ方式のリサイクルをスタートしました。今では当たり前のように見るスーパーマーケットに置かれた使用済み容器の回収ボックス。消費者とエフピコを繋ぐこの緑色のボックスがトレーtoトレーの大きな輪のはじまりです。それでも現在の使用済み食品トレーの回収率は約30％に留まり、この運動のさらなる広がりが必要です。エフピコでは原油などの地下資源に対して使用済み容器を”地上資源”と呼んでいます。地上資源を繰り返し使い続けるリサイクル活動の輪を皆様のご協力をいただきながら大きく育ててまいります。

取締役　総務人事本部副本部長
兼　特例子会社・就労継続支援A型事業管掌
兼　環境対策室管掌
兼　法務・コンプライアンス統括室管掌
西村 公子

使用済み容器が生まれ変わるまでのリサイクル工程

家庭で使用した食品容器がどのような道を辿って新しい容器に生まれ変わるのかをご存知の方は決して多くないようです。4者一体のリサイクルシステムがどのような形で実践されているのかをご確認ください。

消費者

家庭で使用済みの食品容器は簡単に洗っていただき乾燥させ、スーパーマーケットなどの店舗に設置の回収ボックスへ。

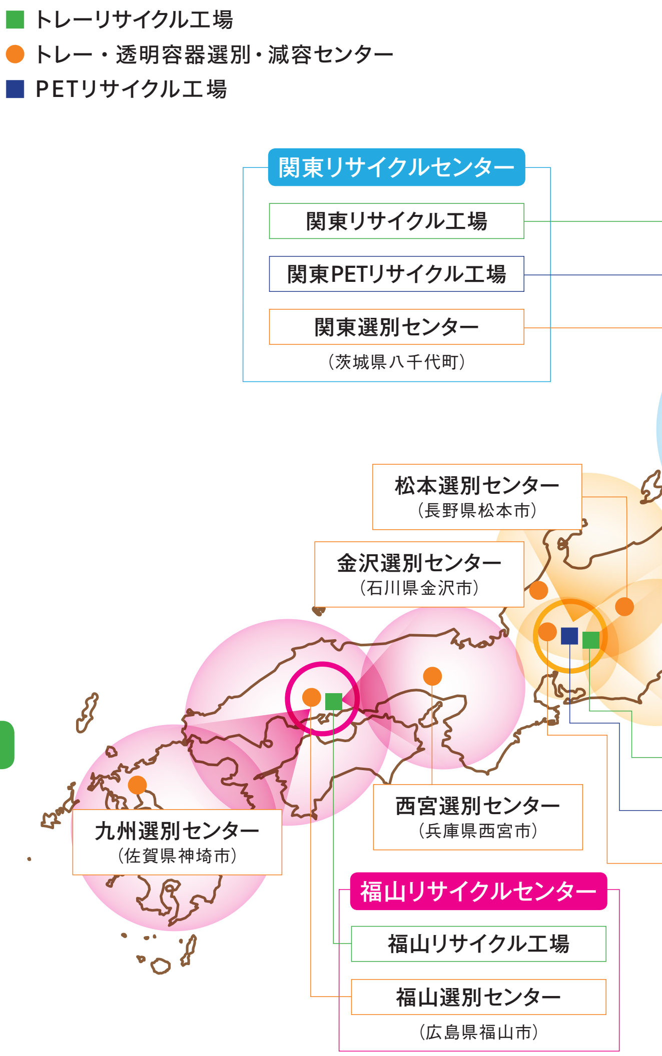
スーパーマーケットなどの小売店

包材問屋などの配送トラックが店舗を訪問した際に回収ボックスの中身を回収して、自社敷地内で保管します。

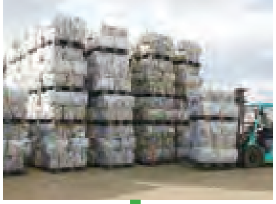
包材問屋

荷台が空になったエフピコ物流の帰り便が包材問屋を回り、保管されている使用済み容器をリサイクルセンターや選別センターへと運搬。

エフピコ



リサイクルセンター等に運び込まれるトレー（左）、透明容器（中）、PETボトル（右）



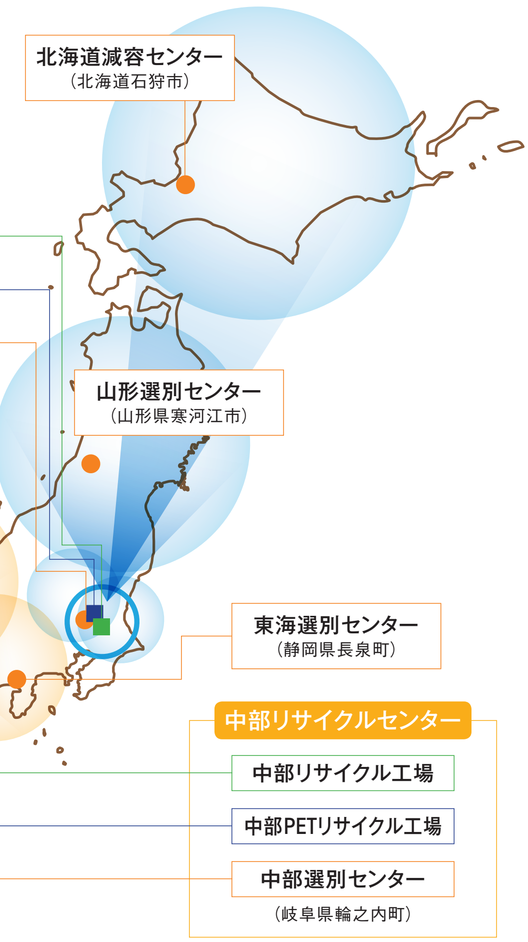
リサイクル工場で選別、洗浄、破砕、異物除去、検査などの工程を経てリサイクル製品へと生まれ変わります。

エコトレー

エコトレーにはエコマークが付いています

エコAPET

エフピコのリサイクル工場見学



リサイクル工場の見学には毎年約2万人の方々をお迎えしています。教育機関、消費者団体、自治体などその内訳はさまざまですが、スーパーマーケットなどに設置の回収ボックスに入れた使用済み容器がリサイクルされる現場を間近でご覧いただけます。皆さんのご協力で集めた使用済み容器がどれほど貴重な資源となるかをぜひその目で確認してください。エフピコのリサイクル工場へのお越しをお待ちしております。

工場見学の申し込み受付

見学受入日時:月～金（祝日を除く）9:00～16:00（一部施設を除く）
ホームページからもお申込みいただけます。

<リサイクル工場> 選別された容器が再生原料になるまでをご覧いただけます。

工場名	所在地	問い合わせ先	1団体あたり最大受入人数
関東リサイクル工場（関東PETリサイクル工場・関東選別センター併設）	〒300-3561 茨城県結城郡八千代町大字平塚4448	関東リサイクル工場 0296-48-0400	120名
中部リサイクル工場（中部PETリサイクル工場・中部選別センター併設）	〒503-0231 岐阜県安八郡輪之内町南波字村東511-5	中部リサイクル工場 0584-68-2041	60名
福山リサイクル工場（福山選別センター併設）	〒721-0956 広島県福山市箕沖町127-2	福山リサイクル工場 084-957-2301	130名

<選別センター> スーパーなどから回収された容器を選別する様子がご覧いただけます。

工場名	所在地	問い合わせ先	1団体あたり最大受入人数
山形選別センター	〒991-0061 山形県寒河江市中央工業団地162番地	山形選別センター 0237-85-3645	40名
東海選別センター	〒411-0934 静岡県駿東郡長泉町下長窪八反田307-1	東海選別センター 055-980-4571	20名
松本選別センター	〒390-0852 長野県松本市大字島立2267番地	東京本社環境対策室 03-5325-7809	15名
金沢選別センター	〒920-0376 石川県金沢市福増町北204番地22	東京本社環境対策室 03-5325-7809	15名
西宮選別センター	〒651-1431 兵庫県西宮市山口町阪神流通センター 1丁目98-2	西宮選別センター 078-907-1288	45名
九州選別センター	〒842-0015 佐賀県神埼市神埼町尾崎3032-1	九州選別センター 0952-51-1028	50名

見学プログラムの一例（計:約90分）

1. リサイクルの流れの説明（10分）工場見学ルームで食品容器がリサイクルされるまでの流れを説明します。
2. リサイクル工程の見学(30分)容器が運ばれてくるところからペレット(トレーの材料)になるまでをご覧いただきます。
3. プレゼンテーション（25分）エフピコが行っている食品容器のリサイクル事業を詳しく説明します。
4. 説明ビデオ（15分）プレゼンテーションで説明した内容をまとめたビデオをご覧いただきます。
5. 質問タイム（10分）見学者からのさまざまな質問にお答えします。

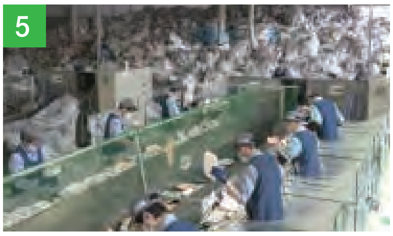
リサイクルセンターでの工場見学の様子

1

2

3

4

5


1 工場見学ルームでエフピコ方式のリサイクルについてプレゼンテーション。
2 リサイクル工場全体を見渡す見学ルートから工程の一部を見学。
3 使用済み容器が工場に搬入されている様子。
4 5 搬入された容器を手作業で選別する障がいのある従業員による作業を間近で見学。

平成27年度
地球温暖化防止活動
環境大臣表彰

リデュース、リユース、リサイクルの「3R」を推進するために、環境省が2006年に創設した表彰制度「容器包装3R推進環境大臣賞」の第1回選考において、エフピコは製品部門の最優秀賞に選ばれました。エコトレーの製造において消費者との連携を進めながら経済性とリサイクルを両立させたことが、評価されました。

公益財団法人日本環境協会 エコマーク事務局が設立した表彰制度である「エコマークアワード」。2011年、この第1回目の最高賞である金賞に、「エフピコ方式による『トレー to トレー』のリサイクル」が選ばれました。

「エコ・ファースト制度」は、業界トップランナー企業が地球温暖化対策や廃棄物・リサイクル対策など、自らの環境に関する取り組みを環境大臣に対して約束する制度です。エフピコグループでは、2011年に環境大臣と「エコ・ファーストの約束」を交わし、『エコ・ファースト企業』に認定されました。

地球温暖化防止活動環境大臣表彰は環境省が1998年度から毎年、地球温暖化防止に顕著な功績のあった個人又は団体の功績をたたえるために実施しています。2015年度にエフピコはその対策活動実践・普及部門において表彰を受けました。

リサイクル事業の成果と対外的な評価

1990年にスタートしたエフピコ方式のリサイクルは年を追うごとにだんだんと大きな成果を残すようになってきました。1992年に1,660カ所だった使用済み容器の回収地点も2017年には9,147カ所となり、この間の回収量も約10倍となりました。使用済み容器を回収し、再生原料として使用することはさまざまなメリットを生み出します。原料となる天然資源の石油使用量削減、資源を循環させることによる廃棄物の削減など、その波及効果は計り知れません。天然資源を枯渇させないため、地球環境を守るため、エフピコではリサイクル事業による地上資源の活用を推進しています。

こうしたエフピコのリサイクル事業は国や自治体からも評価されています。まず最初にリデュース・リユース・リサイクルの「3R」において環境大臣賞を受けましたが、その後も「エコマーク」「エコ・ファースト企業」など、キーワードを冠した賞や認定を受け続けています。循環型社会実現に向けたエフピコのリサイクル事業はこれからも続きます。

	発泡トレー		透明容器		PETボトル	
	回収量	枚数	回収量	枚数	回収量	本数
2017年度	6,161t	15億4,025万枚	2,239t	2億2,390枚	4万6,862t	18億7,448万本
累　計 (1990年〜2018年3月)	13万8,643t	346億5,600万枚	1万4,174t	14億1,740万枚	17万289t	61億2,322万本

※発泡トレー：4g/枚、透明容器：10g/枚、PETボトル：25g/本で計算（2016年度より変更。それ以前は30g/本で計算）。

今までに節約した地球資源

石油の量：
6億1,377万リットル

ドラム缶
約307万本分

今までに節約した社会的コスト

ゴミ回収費：
約664億円

回収車
約265万台分

今までに回収した量

東京ドーム
約53杯分

リサイクル事業における戦力としての障がい者雇用

使用済み容器が回収されリサイクルセンターや選別センターに搬入された後、必ず人の手による選別などの作業が必要となります。高い集中力を必要とするこれらの作業を担当しているのが障がいのある従業員です。エフピコでは2007年から障がいのある従業員をリサイクル事業における戦力として雇用し始めました。2018年3月現在、障がいのある従業員約180人がリサイクルシステムの心臓部を担って働いています。

発泡トレーのリサイクルでは色や柄でトレーの仕分けをしているほか、食品容器としてのリサイクルに適さない不適品の除去もおこなっています。透明容器のリサイクルでは機械が容器の素材を判別して仕分けする前の一列化やトレー同様に不適品除去もしています。どちらの工程においても障がいのある従業員はその能力を発揮し、高い生産性で作業に従事しています。

1

3

2

4

1 使用済み発泡トレーの仕分け作業レーン。従業員それぞれの資質や性格も考慮して適材適所に配置しています。
2 速いスピードで流れてくるトレーを瞬時に仕分けします。
3 使用済み透明容器の一列化の作業レーン。容器の種類や不適品に関する情報などを頭に入れたうえで作業にあたります。
4 一列化と不適品除去には長時間の集中力が求められます。

ライン作業の現場ではチームワークを大切にして相互にコミュニケーションを取りながら働いています。重度の障がいのある従業員も長い時間を掛けて仕事に慣れてもらう体制を整えています。

■特集：関東エコペット工場 ～持続可能な社会の実現に向けて～

使用済みPETボトルリサイクルからエコAPET製造までの一貫ライン

使用済みPETボトルから食品容器を生み出す“もったいない精神”を工場という形にした現代のおとぎ話のような施設が人々の夢を現実へと変えるために動き出しました。

エフピコのバリューチェーンにおける「調達」、「製造」、「リサイクル」の3事業を一個所で展開する関東エコペット工場。隣接する関東配送センターも含めると物流事業も包含する大規模拠点を構成します。

2017年10月、エフピコの関東エコペット工場は茨城県結城郡八千代町で稼働開始しました。既存の関東八千代工場（生産工場）と関東配送センター（物流拠点）、関東リサイクルセンター（リサイクル拠点）に隣接した関東エコペット工場は、使用済み容器のリサイクルから生産そしてその後の配送までを無駄なく効率的に展開するエフピコの大規模拠点の一角を担います。

関東エコペット工場の画期的なところは、回収したPETボトルを原料にリサイクルして素材シートを生産し、そのシートを用いてエコAPET（エフピコの環境対応透明容器）を生産するという一連の工程をひとつの建屋でおこなうことです。少し漫画的な表現をするならば、飲み終わったジュースのPETボトルを機械の中に投げ入れると新品の透明食品容器となって出てくるというようなことなのです。それを日々実際にやっているのが関東エコペット工場です。

1

2

スーパーマーケットに並ぶ様々な食品を包む容器がPETボトルから再生されたものとイメージする消費者はほとんどいないでしょう。ひとつの食品容器にどれほどの創意工夫と努力が費やされているか誰も知らなくても、それが地球環境保護に役立っていれば、エフピコの願いと目的は達成されたことになるのです。

関東エコペット工場で生産されるPET素材の再生ペレットは年間約2万トン。エフピコには他にもPETリサイクル工場があり、エフピコグループ全体としては年間約5万トンのPET素材の再生原料を生産しています。

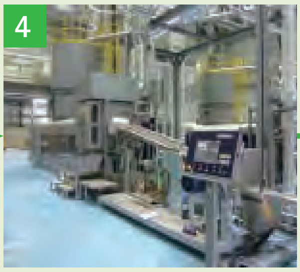
スーパーマーケットやコンビニエンスストアで使用される同じ透明容器でも、それがエコAPETならば使用済み容器・PETボトルがリサイクルされた環境に優しい製品ということであり、CO_2排出の低減が実現されていることになります。使用済み容器をごみとせずにもっとたくさんのリサイクル製品を効率的に生み出せれば、持続可能な社会の実現も近づいてきます。関東エコペット工場完成が目標達成の一歩になることをエフピコは願っています。

1 **使用済みPETボトルの搬入**：圧縮された状態で搬入されます。
2 **前処理工程**：圧縮されたPETボトルをばらし、その中から異素材品を選別した後に砕きます。
3 **洗浄工程**：キャップとラベルを分離し、アルカリ洗浄水による洗浄で不純物を除去します。
4 **ペレット化工程**：高温真空にした反応炉を時間をかけて通過させ揮発留分を除去します。
5 **食品容器適合グレードペレット完成**：食品容器に適したグレードのペレットが完成。
6 **シーティング工程**：再生ペレットから透明容器の素材となるシートを製造します。
7 **成形・裁断工程**：食品容器に成形したシートを裁断して容器が完成。
8 **エコAPET**：エフピコのオリジナル環境対応透明容器であるエコAPET。

8

7

3

4


5

6

ESG

価値創造と持続可能な発展を包括的に実践する

エフピコのESG

エフピコのESGは必要に迫られて実行している活動というよりも、循環型事業のなかのステークホルダーとの関わりにおいて自然とおこなわれているケースが多いのが特徴です。特に「環境」と「社会」については事業の中核として深く組み込まれています。また、エフピコでは国連が提唱するSDGsにも目を向け、ESGよりも包括的に社会的価値の創造を目指すSDGsを意識した活動もおこなっています。

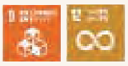
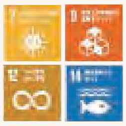
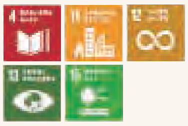
ESG（環境・社会・ガバナンス）とは

ESGは環境（ENVIRONMENT）、社会（SOCIAL）、ガバナンス（GOVERNANCE）の頭文字を合わせた言葉です。企業の長期的な成長のためには、ESGが示す非財務的な側面である3つの観点が必要だという考え方を表しています。ESGに関する要素はさまざまですが、例えば「E」は地球温暖化対策、「S」は女性従業員の活躍、「G」は取締役の構成などが挙げられます。

国連広報センターより引用

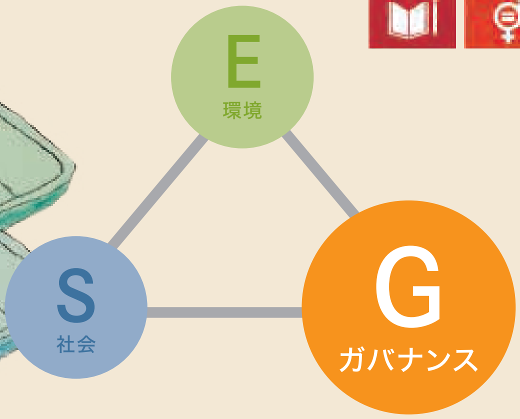
SDGs（持続可能な開発目標）とは

開発アジェンダの節目の年、2015年の9月25日−27日、ニューヨーク国連本部において、「国連持続可能な開発サミット」が開催され、150を超える加盟国首脳の参加のもと、その成果文書として、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。アジェンダは、人間、地球及び繁栄のための行動計画として、宣言および目標をかかげました。この目標が、ミレニアム開発目標（MDGs）の後継であり、17の目標と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標（SDGs）」です。
※国際連合広報センターの解説より抜粋

	エフピコのバリューチェーン（関連事業・活動）	ESG	主に関連する SDGs	
調達	**【環境配慮・社会配慮された原料調達】** ・安全性を確立したエコトレー・エコAPETガイドラインの制定 ・人権を尊重した公正で公平な参入機会の提供と、調達先の選定 ・社会規範、関連法令の遵守と、信頼される活動の実施	E S G		P.9
製品開発	**【環境配慮された製品開発】** ・安全性とリサイクル適性を配慮したエコ製品の開発と提供 ・時代のニーズを考慮した省人化・効率化に適した製品の開発と提供 ・食品ロス削減に配慮した製品の開発と提供	E S		P.11
製造	**【製造工程における環境負荷低減】** ・生産効率のさらなる向上と環境配慮を目指したSCMの有効活用 ・工場設備のリプレースを推進し効率化を向上 ・社会的課題を解決する為のロボット化へのさらなる推進	E		P.15
物流	**【環境配慮・社会配慮された効率的な物流ネットワーク構築】** ・ルートプランナーとR・Dチェックシステムを使った効率的な配送ルートの確立 ・改善提案による業務効率化や社員の働きやすい職場づくりの推進 ・全拠点での非常用発電設備の設置による事業継続の確立	E S G		P.19
販売	**【環境配慮製品の提供、公正公平な取引】** ・エコトレー、エコAPET製品のさらなる拡販 ・地域コミュニティへの積極的な参画 ・社員のワークライフバランスに配慮した制度活用の推進	E S G		P.23
リサイクル	**【本業における循環型価値創造ビジネスモデルの確立】** ・4者一体のエフピコ方式リサイクルシステムの維持・継続 ・リサイクル事業における戦力としての障がい者雇用 ・ステークホルダーとの積極的な対話活動	E S G		P.27

ガバナンス

の観点における価値創造



エフピコのコーポレートガバナンスに関する基本的な考え方は、意思決定の透明性・公正性を確保し、保有する経営資源（人・物・金・情報）を有効に活用することです。さらにこれらを迅速かつ果断な意思決定により実行し、持続的な成長と長期的な企業価値を向上させることを目指しています。そのための基本方針として以下の5つを掲げています。

① 株主の権利・平等性の確保
② 株主以外のステークホルダーとの適切な協働
③ 適切な情報開示と透明性の確保
④ 取締役会等の責務
⑤ 株主との対話

- 組織マネジメント
- リスクマネジメント
- コンプライアンス
- 株主とのかかわり

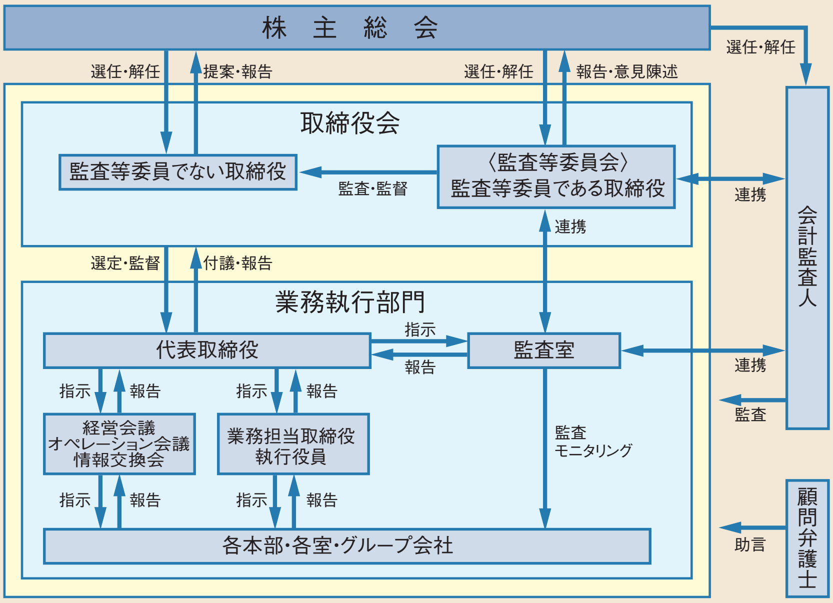
福山と東京の２本社制を取るエフピコの会議室には
ビデオ会議用の設備も備えています。

組織マネジメント

意思決定組織

わたしたちは持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目指し、経営の意思決定の迅速化と取締役の職務執行の監査・監督機能を強化することで、コーポレート・ガバナンスの更なる充実を図ることを目的として、監査等委員会設置会社を選択しています。社外取締役が過半数を占める監査等委員会が経営監視の役割を担い、透明性の高い経営の実現に取り組んでいます。

内部統制システムの概要を含むコーポレートガバナンス体制についての模式図



人材育成と社内外教育

組織を支える人材育成を目的とし、エフピコでは様々なプログラムを実施しています。その対象のほとんどはエフピコグループ全企業の従業員であり、他企業との交流という形で実施する場合もあります。

マンツーマンリーダー研修会

社員の育成担当に任命された社員のことで、約半年から1年間メンターとして新人の教育係となります。メンターとなるための研修ですが、同時にリーダー自身の教える力のスキルアップも目的としています。

次世代研修

エフピコの次世代を担う社員を育成するため約半年間にわたって実施するプログラム。「自分の頭で考える」をテーマに変化の激しい現在のビジネス環境の中で自分の力で答えを創り出し、変化に対応できる社員となるための研修です。

異業種交流会

「他社との交流を通じて“ものの見方・とらえ方”を学ぶ」というテーマで異業種の企業との合同研修にも参加しています。日々の業務に慣れて情報収集力が鈍り、決めつけによる行動に陥りがちな状況に対して新しい意識づけをすることを目的としています。

その他各種研修会

左記の他にも女性マネージャーと上司の相互理解を深める研修、管理職候補を対象とした研修や経理・財務に関する実務のスキルアップのための経理部研修（写真上）、ESGやSDGsという非財務活動による企業価値創造について勉強する環境関連研修会なども実施しています。また勤続10年以上のエフピコグループ社員を対象とした約40名参加のハワイ研修（写真下）では、現地のスーパーマーケットの視察とグループ企業間の交流を目的として年に一回開催しています。

リスクマネジメント

災害・事故のリスクへの対応

近年多発する地震、津波、台風、大雪など過去に例のない大規模な自然災害やそれに伴う事故などに対処するため、エフピコでは様々な施策を講じています。全社員が「災害時用ハンドブック」を携帯しているとともに、災害発生時には安否確認システムが発動します。ヘルメットや避難グッズなど緊急時対策備品はどの職場にも備えられているほか、人為的な事故防止のため作業場での定位置の習慣を身に付けるなど、ソフト面での対策もおこなっています。

1 エフピコの工場では定期的に避難訓練をおこない、非常時の行動を確認しています。
2 同じ敷地内で異なるグループ会社が業務をおこなうため、各社の安全管理者で構成する安全衛生委員会を設けています。
3 福山本社をはじめ各地の施設に非常用発電設備を備えています。
4 福山湾に面する福山市箕沖町のエフピコグループ敷地には高波対策として約2mの高さの防潮堤を設置しています。

製品品質のリスクへの対応

笠岡、関東下館、近畿亀岡の3つの生産工場において国際規格の品質マネジメント「ISO9001」を取得しているほか、他の工場においてもPDCA方式のマネジメントにより品質向上の努力を継続しておこなっています。

● 品質方針

お客様の満足度を第一に、環境に優しく安全・安心して使用頂ける、製品作りを目指します。

本方針を実行・維持・継続する為に私達は下記の事項を確立します。

1. お客様の要望を的確に捉え、対応できる品質マネジメントシステムを構築し、推進・維持・確立する為の経営資源を投入する。
2. 本方針の推進の為に、具体的な品質目標を定める。
3. 食品衛生法等の関連法規を遵守する。
4. 市場の変容、各工場の改革等に合わせ本方針を定期的に見直し、適切性を持続する。
5. 本方針を全従業員に理解させる為にあらゆるコミュニケーションの場を通じて周知・徹底を行う。

情報・セキュリティに関するリスクへの対応

オフィスでの入退場管理は当然のこと、広大な敷地を持つ車両の出入りの多い複合施設ではナンバープレートによる登録制の入退場管理をおこなうセキュリティゲートを設置しています。データ管理の対策としては、データの定期的なバックアップ、非常時対応用の外部データセンター活用、回線の二重化、社外メール誤送信回避システム、専門業者によるPC廃棄などを実践しています。

コンプライアンス

エフピコ社員としての自覚を持つための憲章

わたしたちは経営理念に基づき、社員がどのように行動すべきかを示した「エフピコグループ行動憲章」、さらに同憲章の精神に則った「エフピココンプライアンス行動規範」を制定し、行動準則として定め、コンプライアンスを最優先とした行動を遵守する方針としています。各行動準則は社内ネットワークシステムへ掲載し、随時確認できる環境を整備しています。また、社員一人ひとりのコンプライアンス意識を高め、責任ある言動を心がけるように行動指針を記した「行動羅針盤」を社員がいつでも確認できるところに掲示しています。

エフピコグループ行動憲章

私たちは、エフピコの経営理念に基づき、法令、協定および社内規程等を遵守するとともに、高い倫理観と社会的良識をもって、以下のとおり行動する。

1. 社会に有用な製品・情報・サービスを提供し、消費者・顧客の満足と信頼の獲得に努める。
2. 安全・安心・環境に配慮した製品を開発、提供し、もって食文化の発展に寄与する。
3. 消費者・顧客の協力を得て、「エフピコ方式（トレー to トレー）、（ボトル toトレー）」の循環型リサイクルを積極的に推進し、拡大生産者責任を果たし、地球環境の保全に努める。
4. すべての事業活動において、公正、透明、自由な競争を行う。
5. 株主や製品の利用者と広くコミュニケーションを図り、企業情報を積極的かつ公正に開示する。
6. 人権と個性を尊重した安全で働きやすい職場環境を実現する。
7. 政治、行政、取引先等とは、健全かつ正常な関係を保ち、市民社会に不安と脅威を与える反社会的勢力および団体の不当・不法な要求には一切応じない。
8. 良き企業市民として、積極的に社会貢献活動を行う。
9. 海外においては、各国の法令を遵守し、文化や慣習を尊重して事業活動を行う。
10. 経営全般にわたり有効性を評価し、合理化、効率化に努めて企業価値を高める。
11. この行動憲章に反するような事態が発生したときは、全員で問題解決にあたり、原因究明と再発防止に努める。

コンプライアンス遵守のための様々な施策・プログラム

エフピコでは法務・コンプライアンス統括室が中心となり、集合研修や「コンプライアンス便り」の発刊などを通じて、行動準則の浸透を図っています。浸透状況は取締役、執行役員やグループ会社の代表者による情報交換会で適宜報告をおこない、レビューを実施しています。

株主とのかかわり

建設的な対話と適切な情報開示

エフピコは、持続的な成長と中長期的な企業価値向上に資するため、株主の皆さまとの建設的な対話を積極的におこない、株主の皆さまの意見や要望を経営に反映させていくことが重要と考えています。株主総会や年２回の決算説明会以外にも、個別ミーティングや施設見学会などを実施し、中長期的な経営戦略や事業内容をよりわかりやすく説明することにより、株主の皆さまとの信頼関係構築と適正な株価の形成を図っています。

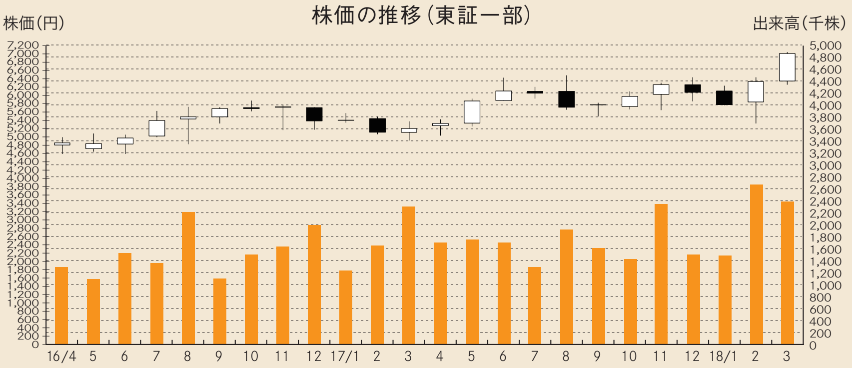
https://www.fpco.jp/ir/

- 業績ハイライト
- IR資料
- プレスリリース
- アナリスト説明会（ビデオ映像等）
- 株主総会のご報告
- 株式情報
- 電子公告

また、常に適時・適正・迅速・公平な企業情報の開示に努めており、有価証券報告書・決算短信・決算説明会資料・プレスリリースなどはホームページの「株主・投資家情報」で公開しています。

企業価値の拡大

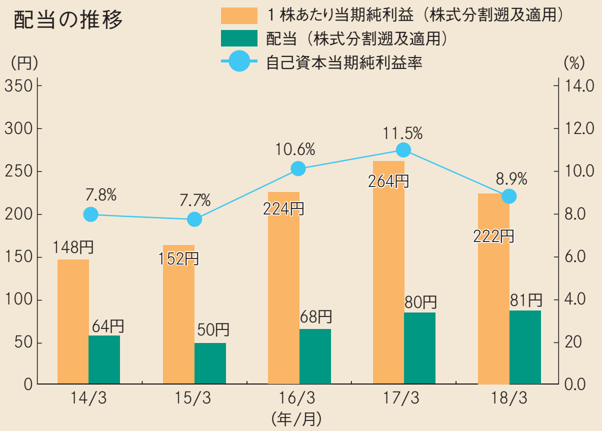
「もっとも高品質な製品」を「どこよりも競争力のある価格」で「必要な時に確実にお届けする」という3つの基本方針に則り、株主本位の経営を実践しています。グループ経営の諸施策を着実に実行することにより、企業価値を高め、1株当たり当期純利益330円を目標としています。



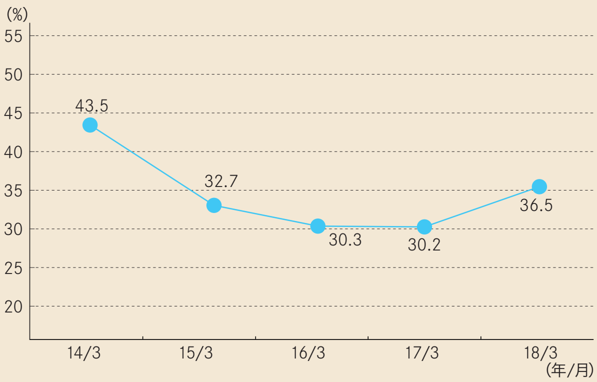
継続的に安定した配当

エフピコは、株主の皆さまへの利益に見合った利益還元を最重要課題のひとつと考え、収益力の向上と財務体質の強化を図りながら、継続的かつ安定的な配当を実施していくことを基本方針としています。このような方針のもと、当事業年度は1株当たり81円（うち第2四半期期末配当金41円）の配当を実施しました。なお、2014年4月1日付で、普通株式1株につき2株の割合で株式分割をおこなっております。

配当の推移



配当性向

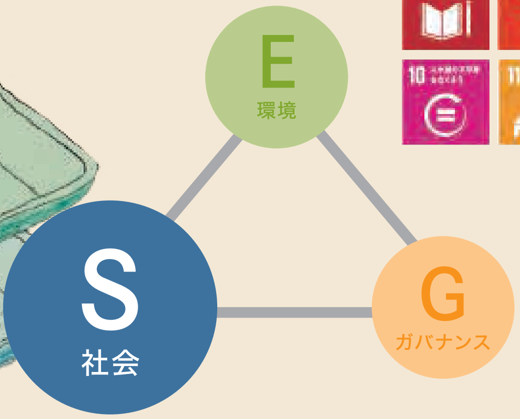


データ：財務サマリー

回次		第52期	第53期	第54期	第55期	第56期
決算年月		2014年3月	2015年3月	2016年3月	2017年3月	2018年3月
売上高	(百万円)	161,121	164,918	170,292	172,858	173,580
経常利益	(百万円)	10,054	10,106	14,027	15,742	13,548
親会社株主に帰属する当期純利益	(百万円)	6,137	6,329	9,294	10,953	9,178
包括利益	(百万円)	6,148	6,967	8,900	11,440	9,806
純資産額	(百万円)	80,062	85,133	91,591	99,721	106,219
総資産額	(百万円)	180,476	196,629	209,053	219,481	244,198
1株あたり純資産額	(円)	1,933.55	2,047.04	2,202.56	2,403.52	2,560.18
1株当たり当期純利益金額	(円)	148.27	152.89	224.54	264.86	222.01
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	(円)	-	-	-	-	-
自己資本比率	(%)	44.3	43.1	43.6	45.3	43.3
自己資本当期純利益率	(%)	7.8	7.7	10.6	11.5	8.9
株価収益率	(倍)	22.2	28.5	21.4	19.6	31.4
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	17,981	16,912	20,832	25,912	13,974
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△11,766	△18,397	△17,923	△21,932	△23,656
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△4,120	△957	△1,530	△924	7,197
現金及び現金同等物の期末残高	(百万円)	16,153	13,710	15,089	18,144	15,659
従業員数	(人)	4,032	4,173	4,332	4,513	4,529

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 2014 年4月1日付で、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っておりますが、第51期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額を算定しております。

社会
の観点における価値創造



循環型の価値創造を実践しているエフピコだからこそできることとは、循環の輪を共に回してくださる消費者、流通関連企業、環境関連団体、障がいのある人の社会参加に関わる方々など全てのステークホルダーに対する感謝の気持ちを形に表すことです。例えばそれは、環境対応製品を通して地球環境保護の重要性をアピールすることであり、障がいのある従業員とともに参画するフロアホッケー活動を通じてダイバーシティを具体的に示すことであると考えます。私たちだからできることを今後もひとつずつ増やしていきます。

- 安全な製品とサービスの提供
- 持続可能なサプライチェーンの構築
- 働きがいの向上
- ダイバーシティ
- 消費者課題
- コミュニティ参画

ユニバーサルスポーツであるフロアホッケー大会開催協力はエフピコの恒例行事です

安全な製品とサービスの提供

製品安全方針

・食品衛生法をはじめとした法令や、業界基準等の要求事項を遵守するとともに、文化や慣習を尊重して事業活動をおこないます。
・社会に有用な製品・情報・サービスを提供し、消費者・顧客の満足と信頼獲得に努めます。
・安全・安心・環境に配慮した製品を開発、提供し、豊かな食生活の創造に寄与します。

持続可能なサプライチェーンの構築

労働環境における人権への取り組み

エフピコグループでは、あらゆる差別やハラスメントを禁止した「行動憲章」のグループ従業員への浸透活動を通じて、人権問題への理解を促進するとともに、全従業員を対象にしたハラスメントセミナーを実施しており、全職場での職場点検を実施するなど、ハラスメントの防止に向けた取り組みを推進しています。

サプライチェーンマネジメント

製品の製造からお客様にお届けするまでのバリューチェーン全体で、人権を尊重した取り組みを進めています。新製品開発や新しい工場等の建設の際には、品質・環境など様々なアセスメントを実施し、人や地域社会への影響評価をおこなうことで人権への配慮を進めています。サプライチェーンにおいては、「直接購買する対象がその生産、流通の段階で児童労働や不法就労等の人権侵害でないことを確認」し、お取引先様に協力を要請して参りました。また、「エフピコグループ行動憲章」においては、「人権・労働・環境・腐敗防止など」に関する事項を明示し、全社員で協働して実践していくことを推進しています。

シニア人材再雇用制度の運用

2006年4月より、60歳で定年退職する社員の再雇用希望者全員を対象として再雇用制度を運用しており、2017年度は、定年退職者の100%（株式会社エフピコ実績）が同制度を活用して活躍しています。

働きがいの向上

人材に関する基本方針

グループ社員一人ひとりが個々の能力や特性を最大限に発揮してその役割を果たし、やりがいや充実感を持ちながらいきいきと働ける環境を作ることが、企業価値の向上につながる経営課題の一つであると考えています。

社員のワークライフバランス支援

繁忙時間帯に集中して働いて作業生産性を向上させることによる長時間残業の抑制、フレックスタイム制、始・終業時刻をスライドする時差出勤、5日間の連続有給休暇（スマイル休暇）取得の義務化、ノー残業デーの設定などにより、労働時間配分を主体的に考え行動し、労働時間の最適化を図る働き方改革を推進しています。

女性の活躍を推進

女性従業員 の職域拡大、継続就業支援、管理職 の増加を目指す取り組みに関して「女性の活躍推進宣言」を厚生労働省のポジティブアクション情報ポータルサイトに掲載しています。女性の総合職採用20%以上を目指し、2022 年までに女性の管理職を50名とするよう取り組んでいます。

エフピコではまだ女性管理職の社員が少ないのが現状です。これからの課題として様々な観点から取り組みをしています。

ダイバーシティ

障がいの有無を超えて楽しむフロアホッケー

エフピコが障がいのある人の雇用を始めたのが32年前。今ではグループ全体で377人の障がいのある従業員が働いています。障がいの有無を超えてグループとしての一体感を感じることができるようにと2010年に始めたのがユニバーサルスポーツであるフロアホッケー活動です。現日本フロアホッケー連盟の理事長である細川佳代子氏と社長の佐藤との出会いがきっかけでした。その後フロアホッケー活動は社員の間で徐々に広がっていき、今では全国に10拠点16チームがあります。約600名の社員が参加し、そのうち障がいのある従業員は約200名です。それぞれのクラブは各地域で定期的に活動をおこない、地域や全国で開催される大会などに参加しています。
またエフピコはフロアホッケーの全日本競技大会や中国四国大会をスポンサリングすることでフロアホッケーを支援し、各大会では多くの社員が運営を支えるなど運営面での協力もおこなっています。2018年3月、当グループ社員のフロアホッケー大会運営に関するボランティア活動が第3回企業ボランティア・アワードに選ばれました。
フロアホッケーのプレーには年齢も性別も役職も障がいの有無も関係ありません。このようなフロアホッケー活動により、グループ内だけでなくインクルージョン社会の輪の広がりに貢献していきたいと考えています。

障がいのある従業員	377名
内訳	
身体障がい	32名（うち重度14名）
知的障がい	340名（うち重度261名）
精神障がい	5名
雇用率換算数	649名
障がい者雇用率	13.78%

障がい者雇用の促進活動

エフピコでは長年にわたりエフピコが培ってきた障がい者雇用の経験を多くの企業と分かち合い、少しでも多くの障がい者に雇用の機会を提供したいという思いでお取引先様の障がい者雇用をお手伝いし、これまで数百人の雇用を生み出しました。

女性が働きやすい職場づくり

エフピコでは子供を持つ女性社員のための時短勤務や子育ての段階に合わせた3種類のフレックスタイム導入などをおこなっています。結婚しても離職する女性社員はほとんどいなく、育児休暇取得率はほぼ100%です。結婚しても子供ができても働きやすい会社として、女性が活躍できる職場づくりを目指しています。

エフピコは2014年度「ダイバーシティ経営企業100選」に選ばれました。ダイバーシティ経営企業100選は経済産業省が主催し、ダイバーシティ人材を活かして、イノベーションの創出・生産性の向上等の成果を上げている企業を表彰する制度です。容器製造やリサイクルの現場において、障がいのある従業員が活躍し、それが企業全体の価値につながっている、というところが評価されました。

広島県が提唱する、障がいのある人と共に生きていく共生社会の実現を目指す「あいサポート運動」において、エフピコはフロアホッケー活動の全国的な広がりに加えて、競技大会運営等にも社員が積極的に参加していることが評価され、第一回広島県あいサポート運動企業表彰（2016）を受けました。

消費者課題

エフピコグループの行動憲章において「社会に有用な製品・情報・サービスを提供」することを掲げ、お客様の視点に立った、社会が抱える課題解決に向けた製品・サービスの提供に取り組んできました。持続可能な消費を実現するためには、正しい商品選択をおこなうための知識が不可欠であり、消費者教育や意識向上につながる啓発活動が重要と考えます。そのために消費者の皆様との直接的なコミュニケーションを求めて、さまざまなイベントなどに積極的に参加しています。いろいろな立場や意見を持った方々との触れ合いは、エフピコのCSR活動を展開するうえでの貴重な情報源となっています。消費者課題の解決には、社会の中でさまざまな背景を持つ多くの人とつながっていることが重要であるとエフピコは考えます。

プラスチック海洋漂着ごみ

使用済みのプラスチックが陸域から河川を通じて海岸に流出するプラスチックごみに対する関心が世界的に高まっています。エフピコでは、「樹脂ペレット漏出防止対策」を進めてきましたが、このたび業界団体を通じて、「プラスチック海洋ごみ問題の解決に向けた宣言活動」に参画し、業界団体と連携した活動を推進して参ります。

食品ロス削減に配慮した製品の開発・提供

日本は食料の大半を輸入に依存する一方で、まだ食べられるのに捨てられている、いわゆる「食品ロス」が毎年大量に発生しています。食品ロスを削減させるためには、新たな容器包装資材の開発や、パッケージの構造の工夫などといった容器包装技術の活用が重要な役割を果たしています。容器包装の本来の機能である「鮮度保持・小分け」という基本的な機能から発展した、容器包装の高機能事例として「輸送時の損傷軽減」という観点で農林水産省HPにて紹介されました。食品ロス削減に配慮した製品は継続して開発していきます。

スーパーマーケットとの協働による工場見学（エコツアー）

大手スーパーマーケット様主催による消費者の方々を招待しての環境イベントにおいて、エフピコのリサイクル工場などを工場見学の会場として提供しています。消費者との大きな接点を持つスーパーマーケットとの協同は相乗効果を生み、店頭での使用済み容器の回収率アップにも寄与しています。

社外からの評価

評価名	当社の評価
第13回 CSR企業ランキング （2017年度東洋経済新報社）	388位／1,413社（426.8点）
第20回 企業の環境経営度調査 （日本経済新聞社）	73位／製造業395社
CDP気候変動プログラム （スコアリング）	Cレベル
2015年度 障がい者雇用率ランキング （東洋経済新報社）	4年連続1位
第3回 企業ボランティア・アワード （東京ボランティア・市民活動センター）	受賞

コミュニティ参画

各種地域イベントへの参加

エフピコの拠点の有無にかかわらず、環境をテーマとした展示会などエフピコとしての参加が相応しいと思われるイベントには積極的に参加しています。会場では普段接することのない方々とのコミュニケーションを深めています。

日付	イベント名	開催地	主催
2017/5/14	駅家小学校イベント	広島県	株式会社オンライン
2017/5/20～21	福山ばら祭2017	広島県	福山市観光課
2017/6/3	八王子環境フェスティバル	東京都	八王子市
2017/6/3～4	エコライフフェア2017	東京都	環境省
2017/6/4	環境の日ひろしま大会	広島県	環境の日ひろしま大会実行委員会
2017/7/1～2	3R推進イベント in イオンモール徳島	徳島県	イオン株式会社
2017/7/22	ひがしひろしま環境フェア2017	広島県	ひがしひろしま環境フェア実行委員会
2017/9/10	やすぎ環境フェア2017	島根県	安来市
2017/9/30	サイエンスフェスティバル2017	広島県	福山市立大学
2017/10/1	もりやま環境フェア2017	滋賀県	守山環境フェア実行委員会事務局
2017/10/7	エコフェスタせたがや	東京都	世田谷区
2017/10/9	新宿環境展	東京都	新宿区
2017/10/11～13	エコテクノ2017	福岡県	北九州市
2017/10/21	笠岡市環境フェスティバル	岡山県	笠岡市
2017/10/28	いたみ環境&リサイクルフェア	兵庫県	伊丹市
2017/10/29	福山市リサイクルプラザ展示会	広島県	福山市環境啓発課
2017/10/29	やまがた環境展2017	山形県	山形市
2017/11/11～12	じばさんフェア2017	広島県	備後地域地場産業振興センター
2017/11/19	ものづくりキッズフェア in とす	佐賀県	鳥栖市
2017/11/26	とりっこエコ活カーニバル	鳥取県	鳥取県
2018/2/17～18	一宮市消費生活フェア	愛知県	一宮市
2018/3/4	新宿こどもまつり	東京都	新宿リサイクル活動センター
2018/3/25	こどもエコクラブ全国フェスティバル2018	東京都	公益財団法人日本環境協会

お客様との協働による環境保全活動

エフピコのお客様であるスーパーマーケットの店舗内スペースなどで開催される環境をテーマとした催事に参画しています。エフピコならではの使用済み容器回収によるCO_2削減をアピールする展示など、リサイクルを実践している企業だからわかる具体的な効果とその数字を提示して来場者に環境活動への積極的な参加を呼び掛けています。エフピコ製品が使われているスーパーマーケットという環境での活動が相乗効果を生んでいます。

地域社会とのつながり

● 出張講座

全国の小学校等で環境保全に関する話やエフピコ方式のリサイクルを紹介する出張講座をおこなっています。

● 学生インターンシップや職場体験の受け入れ

理工学系の学生が対象の「広島県ものづくりインターンシップ事業」や中学生が対象の「チャレンジウィークふくやま」などに受け入れ企業として参加しています。

● 教員研修の受け入れ

広島県教育委員会が実施する「民間企業等長期派遣研修」の受け入れ企業となっています。

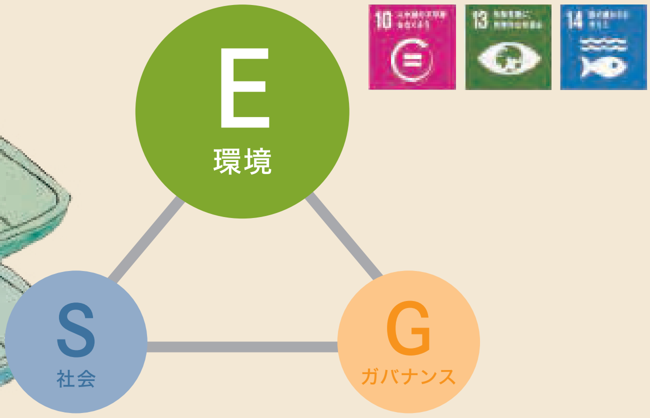
● エフピコRiM

広島県福山市の商業施設のスポンサー企業として命名権を取得し、「エフピコRiM」という名で地域の皆様に親しまれています。

● 地域社会活動への参加

里山などの自然保護活動、近隣の清掃活動、拠点のある地域のお祭りなどの各種イベントやプログラムに参加しています。

環境
の観点における価値創造



エフピコ・エコアクション50

エフピコ方式により自社で製造した使用済み容器をリサイクルしているエフピコでは、全社的に環境への高い意識を持つようになっています。機を見てお客様をリサイクル工場の見学にお誘いするなど、社員各々が普段から自分のできる範囲での活動をしています。環境に関する話題に反応し、積極的に情報収集をおこなうのもエフピコ社員にはよくある行動かもしれません。私たちは「エコ・ファースト企業」に相応しい意識と実践を心掛けています。

日々の移動・運搬用として福山本社に導入した２台の電気自動車

エフピコ・エコアクション50

エフピコグループ全社を挙げての環境負荷の低減を実践するため、会社や部署の垣根を越えて同じテーマに取り組む5つのワーキンググループを組織しています。この5つのワーキンググループが有機的に繋がり情報を交換しながら協働して環境負荷活動を実践することにより、改正省エネ法において報告対象となっているエフピコグループの全拠点（工場、配送センター、オフィス）からのCO_2排出量および特定荷主の責任範囲の物流に伴うCO_2 排出量の合計を以下のように削減することを目標としています。目標達成に向けて「エフピコ・エコアクション50」と題した環境経営計画を策定し、グループ全社的な「エコバリューチェーン」の構築をおこなっています。

ワーキンググループ間協働の例

複数のワーキンググループが情報交換をおこなって知恵を出し合い、バリューチェーンとしての有機的な繋がりを構築している例には以下のようなものがあります。

生産 ワーキンググループ × 物流 ワーキンググループ →
製品を梱包する段ボールは全てオリジナルで制作していますが、その寸法をトラックの内寸に合わせることにより積載量を最適化。これにより1回の配送で運べる製品数を増やし、輸送によるCO_2の削減を実現。

販売 ワーキンググループ × 生産 ワーキンググループ →
新製品の増加とともに販売数が減った製品のアイテムとその製造数を見直す（予測する）ことにより、先を見据えながら製造製品の種類を常に最適数に保ちます。これにより生産の高度効率化を図ります。

販売 ワーキンググループ × 物流 ワーキンググループ →
包材問屋などで一時保管していただいている使用済み容器を回収するトラック便の訪問頻度を、問屋の方々と直接コミュニケーションを取っている営業スタッフが交渉。回収便ルートの効率化でCO_2の削減を実現。

製品ワーキンググループによる施策

- **環境対応素材の開発：** リサイクル可能な環境対応素材の開発/エコトレー・エコAPETの改良・改善等
- **製品素材の軽量化：** デザインの改良によるPSP（発泡）素材製品の軽量化・薄肉化等
- **グリーン調達：** 環境負荷の少ない原材料、部品、製品の調達/環境に配慮した原料メーカーの選定等

生産ワーキンググループによる施策

- **生産工場における品質マネジメント：** PDCA方式のマネジメントによる業務の効率化等
- **エネルギーの見える化：** 生産工場を動かすユーティリティ使用状況の見える化による無駄の排除等
- **生産工場施設の保守・リニューアル：** エネルギーを効率的に利用するための施設の改良やリニューアル等
- **「ものづくりプロジェクト」の実践：** 全国の生産工場スタッフの情報共有による業務の効率化成果発表会等
- **工場内リサイクル：** 製品製造工程で出た端材や各種梱包材のリサイクル等

物流ワーキンググループによる施策

- **サプライ・チェーン・マネジメント（SCM）部との連携：** 物流計画の一部をSCM部に依頼し生産部門との連携で生産に関わる物流活動を効率化
- **物流改善発表会の開催：** 全国の配送センタースタッフによる改善策実施の情報共有等
- **ルートプランナーとR・Dチェックシステム：** 配送計画の高度効率化を目指したＩＴの活用等
- **物流施設の環境保全活用：** 各地の配送センターの屋上に太陽光パネルを設置もしくは緑化を実施する等
- **ドライバーへの指導：**「エコドライブ10カ条」運動による環境型運転の実践
- **海上貨物輸送の採用：** CO_2排出の少ない海上貨物輸送の採用

販売ワーキンググループによる施策

- **環境対応製品の販売促進：** リサイクル製品であるエコトレーとエコAPETを積極的に販売
- **使用済み容器回収率アップのための各種施策：**
  - 回収ボックスの設置に向けた店舗への働きかけ
  - 各種啓発ポスターの店頭での掲出
  - 「エコステーション」などと題した回収地点におけるエコロジー運動の機運づくり
- **お客様との共同開催イベント：** エコツアーなど工場見学を核とした環境イベントの共同開催等

オフィスワーキンググループによる施策

- テレビ会議システム：出張や打ち合わせなどによる社員移動で発生するCO_2の削減
- 低公害車の導入：電気自動車、ハイブリッド車、低公害車、軽自動車の積極的な導入
- パソコンのクラウドシステム：個々にハードディスクを使用しないクラウドシステムにより電気使用量を削減
- エコドライブモニタリング：遠隔監視システムにより運転状況をモニターしてCO_2削減に寄与する運転を指導
- ペーパーレスの実践：メール配信やウェブでの閲覧など可能な限り各種書類や帳票はペーパーレスに
- 社員向けの環境教育：外部の専門家講師を招聘するなどして環境保全活動の意義と重要性を啓発

データ：環境データサマリー

企業活動に伴い様々な物質の移動や環境への影響が発生します。私たちエフピコは、自然環境への負荷を可能な限り低減・抑制するために、自らの企業活動が生み出した環境への影響を、正確に把握することに努めています。以下は部門ごとの物質収支・エネルギー使用量となります。

製造部門2017年度データ（年間生産値）

INPUT	エネルギー	電力	308,307,944kWh
		化石エネルギー	109,649,757MJ
	水資源	上水	321,886㎥
		地下水	160,806㎥
		工業用水	101,390㎥
	原料（樹脂類他）		181,795t
	副資材	段ボール	34,809t
		包装ポリ	2,848t
	その他	潤滑油	12,738L
		シンナー	27,109L
		紙	2,690,000枚
OUTPUT	製品	製品生産重量	177,174t
		出荷トラック台数	160,852台
	廃棄物		19,533t
	環境汚染物質	煤塵	186kg
		NOx	20,309kg
		BOD	8,418kg
		COD	12,555kg
		SS	9,983kg

物流部門2017年度データ（年間生産値）

INPUT		
エネルギー	電力	17,343,122kWh
	化石エネルギー	3,030,483MJ
水資源	上水	23,024㎥
その他	紙	9,203,816枚

OUTPUT		
廃棄物		475t

オフィス部門2017年度データ（年間生産値）

INPUT		
エネルギー	電力	3,050,915kWh
水資源	上水	2,809㎥
その他	紙	5,341,500枚

OUTPUT		
廃棄物		181t

第三者によるコメント

織 朱實様　上智大学地球環境学研究科教授

2017年10月に上智大学地球環境学研究科の学生90名近くを連れて、エフピコ福山リサイクルセンターを見学させていただきました。90名の学生の90%は留学生。国も、アフリカ諸国、ミクロネシア諸国、フィリピン、レバノン、イタリア、中国、モンゴルと、実に様々でしたが彼らがみんな一様に驚いたのが、消費者から集められていたトレーの綺麗さ! 整理整頓されたリサイクル工場で、実に手際よく処理されていく手選別作業の効率の良さ!「これは、本当に使用されていたものなのですか?」という声もあがっていました。「トレーtoトレー」というマーケットに、エコトレーという新しい価値を付加した製品を投入することで確立したエフピコさんの成功の秘密は、まさにこの集められたトレーの美しさにあると思います。これだけ綺麗なトレーが集められる背景には、エフピコさんのたゆまない消費者への普及活動、障がい者雇用をはじめダイバーシティに向けての取組、循環型社会に向けての企業理念の徹底、輸送の効率化等ビジネスとしての効率化への取組等様々な要因があるのでしょう。エコトレーをビジネスとして成功させたエフピコさんのリサイクルの現場を見せていただいたことは、留学生にとってなによりも得難い貴重な体験でした。このことが、またエフピコさんの理念が、海外に広がる一つのきっかけにもなるのではないかと思います。これからも、ダイバーシティ、循環型社会への取組を進められると同時に、今回のように広く工場見学の門戸を開き、私たちに取組を見せていただければと思います。

エフピコのあゆみ

1962	7月	福山パール紙工(株)設立。広島県福山市古宮町(現在の霞町)に福山本社を設置し、PSP成形加工を開始
1968	3月	業容発展に伴い、福山本社を現在地(福山市曙町)に移転
1972	4月	福山配送センター(広島県福山市)を開設、以後各地に配送センターを設置
1976	6月	自社製品の展示会「パールフェア(現エフピコフェア)」第1回目を開催
1979	7月	配送体制強化のためエフピコ物流(株)を設立
1980	1月	トレー容器のゴミ処理問題が発生、使用済みトレーの回収をいち早く開始する
1981	6月	食品容器のファッション化に対応して、カラー食品容器の製造販売を開始
1983	4月	東京支店(東京都練馬区)を開設
1984	5月	代表取締役社長(当時)小松安弘がPSP成形加工工業組合理事長に就任
1985	2月	大阪支店(大阪府大阪市)を開設　2013年5月、現所在地(大阪市北区中之島)に移転
	11月	関東工場(茨城県八千代町)稼働、以後各地に生産工場を設置
1989	1月	CIを導入、商号を株式会社エフピコに改める
	11月	広島証券取引所に株式上場
1990	9月	エフピコ方式のリサイクルスタート
1991	2月	大阪証券取引所市場第二部に株式上場
	11月	エコトレーが業界初のエコマーク認定
1992	3月	エコトレー販売開始
1993	3月	(財)クリーン・ジャパン・センター主催「再資源化貢献企業表彰事業」にて『クリーン・ジャパン・センター会長賞』受賞
1995	4月	物流業務全般をエフピコ物流(株)に移管
1996	4月	第22回「エフピコフェア96」を東京で初開催
1997	5月	代表取締役社長(当時)小松安弘が『藍綬褒章』を受章
2000	1月	特例子会社(株)ダックス四国本社工場(高知県南国市)を竣工、以後各地に特例子会社の事業所を設置
	3月	東京証券取引所市場第二部に株式上場
2001	11月	東京支店を東京本社に昇格し、福山、東京2本社制に
2003	7月	東日本ハブセンター(茨城県八千代町)完工
2005	9月	東京証券取引所市場及び大阪証券取引所市場第一部に株式上場
2006	10月	就労継続支援A型子会社を目的とする広島愛パック(株)(現エフピコ愛パック(株))設立、以後各地に愛パックの事業所を設置
2007	4月	「第1回容器包装3R推進環境大臣賞」にて『製品部門最優秀賞』受賞
2009	5月	西関東ピッキングセンター(東京都町田市)稼働、以後各地にピッキングセンターを設置
2011	2月	「エコマークアワード2010」にて『金賞』受賞
	4月	環境大臣より「エコファースト企業」として認定を受ける
	12月	再生PET容器「エコAPET」が(財)日本環境協会よりエコマーク商品認定を取得
2012	4月	再生PET容器「エコAPET」を上市
	11月	PET容器では世界で初となるPET2軸延伸製品を上市
2013	11月	代表取締役会長小松安弘が『旭日重光章』を受章
2014	8月	福山クロスドックセンターを稼働開始(広島県福山市)
	12月	エフピコ総合研究所・人材開発研修センター竣工(広島県福山市)
2015	3月	経済産業省より「ダイバーシティ経営企業100選」に選出
	5月	経済産業省と東京証券取引所が選ぶ「攻めのIT銘柄」に選定
	11月	経済産業省主催「第6回ものづくり日本大賞(製品・技術開発部門)」優秀賞受賞
	12月	地球温暖化防止活動環境大臣表彰(対策活動実践・普及部門)受賞
2016	3月	PETボトルリサイクルからエコAPET製造までの一貫生産拠点「中部エコペット工場」稼働
		代表取締役会長小松安弘が、「福山市名誉市民」に推戴される
2017	5月	創業者小松安弘永眠
	10月	関東エコペット工場稼働

2018年5月23日、創業者小松安弘の一周忌に合わせ銅像の除幕式を執り行いました。この銅像は小松安弘のものづくりにかけた情熱の結晶とも言えるエフピコ総合研究所の正面玄関ロビーに設置しています。在りし日の厳しくも心温かい面影そのままに、来訪された方々に語り掛けてくれそうな姿です。

そして私たち社員には、現場主義と顧客第一主義の大切さを説く小松の叱咤激励が聞こえてきそうです。小松の遺志を継ぎ、エフピコのDNAを持つ私たちの背中を押して前へ進むよう勇気づけてくれるこの銅像は、エフピコが辿ってきたこれまでの過去ではなく輝かしい未来を象徴していると私たち社員は皆一様に感じています。

「エフピコレポート2018」を最後までご覧いただき、誠にありがとうございます。内容の継続的な改善のためにも、当レポートに添えてありますアンケートに是非ともご協力いただきますようお願い申し上げます。

2018年6月
環境対策室　ジェネラルマネージャー
冨樫英治

エフピコ レポート 2018
発行日:2018年6月

編集方針

エフピコらしさを皆さまにご理解いただけるよう、各活動の実績、これからエフピコが目指す方向性を明確に記載するよう心がけました。

CSRに関わるレポートの作成にあたっては、環境省の「環境報告ガイドライン(2012年度版)」を参考にしました。

対象期間:2017年4月1日～ 2018年3月31日

対象範囲:株式会社エフピコ、およびエフピコグループ

制作部門・問い合わせ先　**株式会社エフピコ 環境対策室**
〒163-6036 東京都新宿区西新宿六丁目8番1号　新宿オークタワー(総合受付36階)
TEL 03-5325-7809　FAX 03-5325-7811　E-mail:Env-FP@fpco-net.co.jp　ホームページ:https://www.fpco.jp/

FPCO Report 2018

To be a company that links
people with people, people with nature,
and companies with society.

株式会社 エフピコ

福山本社　〒721-8607　広島県福山市曙町1-13-15　TEL (084) 953-1145
東京本社　〒163-6036　東京都新宿区西新宿6-8-1 新宿オークタワー36F　TEL (03) 5320-0717
大阪支店　〒530-0005　大阪府大阪市北区中之島3-6-32 ダイビル本館22F　TEL (06) 6441-2468
営 業 所　札幌、仙台、新潟、静岡、北陸、名古屋、広島、四国、福岡

■ホームページ https://www.fpco.jp/　■eメール Env-FP@fpco-net.co.jp